

2022 年度 部局 FD 活動報告

国際基幹教育機構

1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）		
機構内教育改革委員会を設置している。メンバーは副機構長、大学教育グループから 3 名、その他の教員グループから 3 名の 7 名。FD 活動は科目委員会単位または教員 G 単位で検討・実施されており、機構内教育改革委員会が計画と実施状況の取りまとめを行っている。		
2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
大学教育 G		
12 月 26 日	初年次ゼミナールについての説明会	62 名
英語 G		
2023 年 2 月 20 日	University English A 科目担当者打合せ会（UE3A カリキュラムガイダンス、および、UE1A・2A 担当者意見交換会）	
2023 年 2 月 6 日	University English B 科目担当者打合せ会	7 名
2023 年 3 月 7 日 or 14 日	University English B 科目担当者打合せ会	
健康・スポーツ科学 G		
2022 年 4 月 4 日（月） 11 時 00 分～	第 1 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員（非常勤を含む）による FD 研修会および授業実施説明会）	8
2022 年 4 月 4 日（月） 13 時 00 分～	第 2 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員（非常勤を含む）による FD 研修会および授業実施説明会）	9
2022 年 4 月 12 日（火） 12 時 15 分～	第 3 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員（非常勤を含む）による FD 研修会および授業実施説明会）	10
2022 年 4 月 14 日（木） 12 時 15 分～	第 4 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員（非常勤を含む）による FD 研修会および授業実施説明会）	12
2022 年 4 月 14 日（木） 16 時 15 分～	第 5 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員（非常勤を含む）による FD 研修会および授業実施説明会）	5
2022 年 4 月 22 日（金） 13 時 00 分～	第 6 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員（非常勤を含む）による FD 研修会および授業実施説明会）	4
2022 年 9 月 27 日（火） 12 時 00 分～	第 7 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員（非常勤を含む）による FD 研修会および授業実施説明会）	9
2022 年 9 月 27 日（火） 16 時 10 分～	第 8 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員（非常勤を含む）による FD 研修会および授業実施説明会）	9
2022 年 9 月 29 日（木） 11 時 50 分～	第 9 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員（非常勤を含む）による FD 研修会および授業実施説明会）	9
2022 年 9 月 29 日（木）	第 10 回 FD 研修会（健康・スポーツ科学実習担当教員（非	9

16時10分～	常勤を含む)によるFD研修会および授業実施説明会)	
2023年3月20日(月) 15時00分～	第11回FD研修会(健康・スポーツ科学実習担当教員(非常勤を含む)によるバレーボールを教材とした授業展開モデルと指導方法の検討)	11
数学 G		
2022.8.25	数学FDミーティング	39名程度
2023.2.26	数学FDミーティング	40名程度
キャリアデザイン科目 G		
9月26日(月)	ベネッセ教育総合研究所「第4回大学生の学習・生活実態調査」(2021年実施)勉強会	教員11名
11月28日(月)	THE世界大学ランキング2023資料分析・検討会	教員11名
12月26日(月)	OMUへの関心度ビッグデータ解析結果勉強会	教員11名
1月23日(月)	数理・データサイエンスによる大学ランキング解析勉強会	教員11名
2月27日(月)	知識・スキル・経験のデジタル証明としてのオープンバッジの戦略的活用	教員10名
3月27日(月)	学生レポートをデータ解析	教員11名
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)～について」 「第2回…」と記載)	委員の人数
人権 G		
副専攻運営委員会	第1回4月2日人権問題研究演習1a、2の進め方について 第2回7月8日ワークショップと講義で学ぶ人権基礎講座の進め方について 第3回10月1日人権問題研究演習1b、1aの進め方について この他、各演習のあとに学生の理解度を確認しながら、今後の進め方についての微調整を議論するミーティングを行った。	5
大学院共通科目「人権問題論」担当者会議	2月10日：次年度の「人権問題論」の進め方について	2
大学教育 G		
初年次教育科目委員会	・第1回科目委員会を5月20日、第2回科目委員会を1月31日に開催し、教育改善・FDに関連するものとして、次の事柄も含めて検討 ・GP分布・GPCデータの分析・検討	4人

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業担当者・予定者への説明等についての議論 ・受講者および教員アンケートの分析 	
大学院共通教育科目委員会	・メール会議（1月31日～2月10日）で、GP分布・GPCデータの分析と検討を行った。	4人
教職 G		
グループ会議（定例）	9月22日、10月27日、11月24日、12月22日、教職カルテ運用について等（教育改善に関わる）	3人
英語 G		
英語授業改善のための意見交換会、および2023年から提供する2年生必修科目提供にむけた検討会	第1回（4月8日）、第2回（5月13日）、第3回（6月10日）、第4回（7月8日）、第5回（9月16日）、第6回（10月14日）、第7回（11月11日）、第8回（12月9日）、第9回（1月13日）、第10回（2月10日）	14名
初修外国語		
第10回初修外国語科目委員会	各言語の担当者より2022年度前期GPCに関する報告、及び各言語の2022年度のFD活動の報告を行い、各言語の状況について質疑応答と意見交換を行った。 2023年2月10日	13
特例科目（日本語）		
特例科目委員会	第1回（6月3日）：科目編成、教材整備について 第2回（7月25日）：FD計画、新年度科目編成について 第3回（10月17日）：森之宮キャンパス移転後の科目編成、科目新設について 第4回（2月3日）：FD報告、データ（GPC・留学生数）について 第5回（3月予定）：新年度科目編成、科目新設について	2
教育推進課との協議	9月5日 科目を受講する留学生の現状および森之宮キャンパス移転後の科目編成、科目新設について	3
国際交流課との協議	12月7日 学内の日本語教育・支援の現状および教育・支援のニーズ・方向性について	2
健康・スポーツ科学 G		
健康・スポーツ科学科目委員会	第1回（5月27日）健康・スポーツ科学実習の開講状況について、その他 第2回（6月8日）2022年度のFD計画について、その他 第3回（7月13日）健スポ実習の再履修について、その他 臨時（8月26日）2023年度国際基幹教育機構開設科目時	10

	<p>間割表について、その他</p> <p>第4回（9月14日）森之宮キャンパスにおける健康・スポーツ科学実習について、その他</p> <p>第5回（10月19日）健スポ実習における合理的配慮を必要とする学生への対応方針について、その他</p> <p>第6回（11月18日）森ノ宮キャンパス完成後の基幹教育科目の授業提供方法について、その他</p> <p>第7回（12月21日）2023年度入学生用 国際基幹教育機構 開設科目要覧の作成について、その他</p> <p>第8回（1月18日）国際基幹教育機構開設科目のGP 分布 GPC データの分析・対応について、その他</p> <p>第9回（2月22日）2022年度FD活動報告について、その他</p> <p>第10回（3月15日）健康・スポーツ科学科目の開講方針および評価方針についての検討、その他</p>	
教務担当教員会議	<p>第1回（6月1日）2022年度のFD計画について、その他</p> <p>第2回（12月5日）要配慮の学生に対する対応について、その他</p> <p>第3回（2月2日）健スポ概論および実習の再履修・未履修者に対する対応方針について、その他</p> <p>第4回（2月20日）次年度学外集中授業の展開と指導方法について</p> <p>第5回（3月10日）次年度健康・スポーツ科学科目の評価についての検討</p>	7
物理 G		
物理学分野会議（中百舌鳥地区）	<p>第1回（4月7日）物理学実験機器の整備について 他</p> <p>第2回（5月12日）物理学実験機器の整備について 他</p> <p>第3回（6月2日）物理学実験機器の整備について 他</p> <p>第4回（7月7日）来年度科目担当者について 他</p> <p>第5回（9月1日）来年度科目担当者について 他</p> <p>第6回（10月6日）物理学実験機器の整備について 他</p> <p>第7回（11月10日）来年度科目担当者について 他</p> <p>第8回（12月1日）来年度非常勤講師について 他</p> <p>第9回（1月5日）来年度非常勤講師について 他</p> <p>第10回（2月2日）GP データの検討 他</p> <p>第11回（3月2日）物理学実験機器の整備について 他</p>	4人
物理学科目委員会	1月24日 GP データの検討方針について	8人 (うち、3人は機構外委員)

キャリアデザイン科目 G		
高度人材育成推進センター定例会議	第1回 4月8日 メンバー顔合わせ、今後の日程確認、他 第2回 5月23日 アドバイザリー委員会運営要領改定、他 第3回 6月27日 産学連携教育イニシアチブ育成プログラム、他 第4回 7月25日 リーディングプログラム履修生募集、他 第6回 9月26日 上期「TEC Fledge プログラム」報告、他 第7回 10月24日 アドバイザリー委員会報告、他 第8回 11月28日 ビジネスアイデアコンテスト報告、他 第9回 12月26日 インタラクティブマッチング2022報告、他 第10回 1月23日 EDGE NEXT 終了評価結果報告、他 第11回 2月27日 2023年度 TEC・Fledgeカリキュラム、他 第12回 3月27日 プログラム・イベントの実施 報告、他	専任教員 5名 特任教員 6名 計 11名
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）		
大学教育 G		
<ul style="list-style-type: none"> 大学教育 G メンバーは、高等教育研究開発センターの専任研究員として、多様な全学 FD の企画・運営を担当するとともに、他部局の部局 FD 等の支援を行った。（高等教育研究開発センターの FD 関連業務については、別途報告予定。） 		
英語 C		
<ul style="list-style-type: none"> 英語カリキュラムに関する教員、および学生アンケート調査の実施 非常勤の先生方からの授業内容、運営に関する質問への対応 		
初修外国語		
<p>【初修外国語全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> Teams に初修外国語科目委員会のチームを作成し、チームの中に FD 専用のチャンネルを設け、FD に役立つ情報の交換や授業改善に関する話し合いを行なった。2月10日現在で学内外の FD セミナーの情報など約 40 件の投稿が行われている。 <p>【朝鮮語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材の活用や「韓国語 WEB 教室」の活用方法について説明会及び意見交換を行った。 授業の改善点や模範的取り組みについて、意見交換を行った。 <p>【中国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全担当者（非常勤講師を含む 42 名）をメンバーとする Teams のチームを作成し、中国語教育の改善 		

に役立つ情報の配信を開始している。Teams の分析機能によると、2023 年 2 月 10 日現在で過去 90 日に「24 投稿・20 返信・3 メンション・32 リアクション」があった。今後も定期的に配信する予定である。

【ロシア語】

- 共同で受け持つ授業の運営にあたって、非常勤講師同士の円滑なコミュニケーションを促すために、連絡用のプラットフォームとしてエクセルを活用し、必要な情報の交換を行なった。
- 教務内容の年間計画を周知するため、zoom 等を利用し、新年度開始時期に非常勤講師と情報共有する機会を設けた。

【ドイツ語】

- 授業担当者を対象にグーグルフォームを使って授業アンケートをとり、授業運営上の課題や問題を共有・分析した。
- 後期の成績評価終了後、非常勤講師も含めてオンライン会議を開催するため準備をすすめている（3 月上旬頃に開催予定）。それぞれのクラスやコースに適した教材や授業進度、シラバス記載内容等についての相互チェックと意見交換を行う予定である。

【フランス語】

- 非常勤講師を含む全担当者との連絡用にメーリングリストをすでに設置しており、そこから教育改善に関する情報の交換・共有を行った。
- ツール大学大学院から FLE（外国語としてのフランス語教育）専攻の大学院生 2 名を受け入れ、フランス語基礎およびフランス語特修の一部クラスで教育実習を行った。
- フランス語クラスで、学生アシスタント（SA）やフランスの交流協定校から受け入れた留学生（日本語学習者）の参加により、学生間交流と学びの活性化を図った。
- フランス語教員を目指す大学院生に対し、TA や TF の経験に加えて、FLE（外国語としてのフランス語教育）教員養成スタージュ受講を推奨した。

フランス語教育、その他の外国語教育に関する学会や研究会、シンポジウム、講演会への参加を通じ、教育法や学習者支援、授業改善等についての新しい知見を取り入れることを推進した。

特例科目（日本語）

- ・ 2022 年 7 月 12 日：中百舌鳥キャンパスのボランティア団体「KoKoC」が I-wing なかもず（国際寮）で実施する日本語課外講座を見学し、講師への聞き取りを行なった。
- ・ 2023 年 1 月 24 日：SI コース／COIL 事業およびソーシャル・イノベーション留学生受入コースを構成する科目について、相談会が行われ、特例科目教員 2 名も参加した。
- ・ 2023 年 1 月 27 日：杉本キャンパスの文学部が実施した FD 研究会「海外志向と国際交流の重要性」に参加し、大学／大学院教育と留学生受け入れ／留学派遣についての現

健康・スポーツ科学 G

- ・ 各教員が FD セミナーなどへの積極的な参加により、FD に対する意識づけとさらなる拡充を目指して活動した。
- ・ 健康・スポーツ科学科目委員会において、健康・スポーツ科学概論および実習の履修方法、授業内容、授業展開、成績評価方法などについて、2024 年度までの両キャンパス開講期間の方針について検討した。また、2025 年度の森之宮新キャンパス移転後の方針について検討を進めた。
- ・ スポーツ教育施設の整備、機材の精選などを行い、さらなる授業の質的向上を目指し、学生満足度の高い効果的な授業展開を行うための検討を進めた。

<ul style="list-style-type: none"> 多様な学生への対応を視野に入れ、健康・スポーツ科学実習において、学外での集中野外実習授業を新たに設定し、その授業展開及び指導内容、指導方法について検討した。また、授業後に指導内容、教育評価について検討を行った。 次年度の学外集中授業について、より一層の充実を図るため、新たな内容を設定し、実地踏査を含めた検討を行った。 <p>これまでに各キャンパスで実施してきたプロジェクト型研究の成果を各授業に適用することで、学生の好奇心の充実を図り、さらに魅力ある授業の展開を目指して活動した。</p>
数学 G
<p>数学相談室の運営</p> <p>Moodle・STACK(オンライン数学テスト)のコンテンツ開発</p>
化学 G
<p>月例のグループミーティングで、毎回教育改善について議論した。また森之宮キャンパスで実施する「基礎化学実験」の新しいテーマや施設についてグループ全体で検討を行った。</p>
生物学 G
<p>(1) SEL 教室において提供されている接続教育教材について各担当授業内にて紹介し、受講者に活用を促した。高等学校における教科内容(範囲、深度)について、担当教員間で共有した。</p> <p>(2) 成績評価・到達度評価の方法と基準に関して、到達目標・授業科目の概要を共通とする同一科目名のクラス間で、齟齬をきたさぬよう、開講前と成績評価時に打ち合わせと調整の機会をもった。</p>
地学 G
<p>特にないが、FD に関わる情報を積極的に収集している(例えば、機構女性教員 ML など)。</p>
キャリアデザイン科目 G
<p>独自アンケートを実施 (戦略的システム思考力演習 1、戦略的システム思考力演習 2、インタラクティブ・マッチング、キャリアパス支援説明会、など)</p> <p>講義案内パンフレットを作成し、大学院生に加えて教員にも配布</p> <p>(イノベーション創成型研究者養成、イノベーション創成型研究者養成 1～4)</p> <p>科目履修説明会を実施(戦略的システム思考力演習 1, 2、イノベーション創成型研究者養成、イノベーション創成型研究者養成 1～4)。対象は大学院生ならびに教員。</p>
<p>5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄(必ずご記入ください)</p> <p>科目委員会ごとに、各授業の GP 分布・GPC の妥当性を分析(担当教員への聞き取りも含む)し、今後の対応について検討した。その結果を機構内教育改革委員会および国際基幹教育機構教授会で共有した。</p>
<p>6. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 [実数] (必ずご記入ください)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 (65) 人 所属内の専任教員の人数 (79) 人
<p>7. その他、追記事項</p>
初修外国語
<p>【中国語】</p>

- 2023年3月に中国語担当者に対して統一教科書やTeamsによる情報提供に関する任意回答による匿名アンケートを実施する予定である。また、匿名アンケートでは大阪公立大学の中国語教育に関する意見や質問等を尋ねる自由記述欄を設け、今後のFD活動の参考とする予定である。

【ロシア語】

- 本学ロシア語科目受講生と神戸市外国語大学ロシア語科目受講生がともに参加するエクスカージョンを実行し、日露の文化交流について理解を深めた。
- 後期にはランゲージカフェを各キャンパスで隔週開催した。ゲームやミニレクチャーを通じて語彙力の増加、会話力の強化を図ると共に、ロシア文化の紹介をした。

【フランス語】

新規非常勤講師の先生に対してクラス担当に関する実践的教育を受けてもらった。

人権 G

今年度は非常勤の先生とのFD研修を行うことができなかった。来年度の課題としたい。

2022 年度 部局 FD 活動報告

現代システム科学域・現代システム科学研究科

<p>1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）</p> <p>・現代システム科学域・研究科の教務委員会において FD に関する議題を取り上げ、教務委員会全体として、学域・研究科の FD 活動を推進した。</p>		
<p>2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催</p>		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
2023 年 3 月 23 日 （予定）	現代システム科学研究科 FD カンファレンス （研究科連絡会議内で実施予定）	
<p>3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催</p>		
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第 1 回（*月*日）～について」 「第 2 回…」と記載）	委員の人数
現代システム科学域 教務委員会	学域の FD 活動に関する内容について、課題・情報の共有を行った。毎月第 2 木曜日。	11 名
現代システム科学研究科 教務委員会	研究科の FD 活動に関する内容について、課題・情報の共有を行った。毎月第 1 木曜日。	6 名
<p>4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）</p> <p>・現代システム科学域 1 年次必修のオムニバス講義 4 科目「情報システムとサステナビリティ」「自然システムとサステナビリティ」「社会システムとサステナビリティ」「人間システムとサステナビリティ」において、授業担当者によるピア授業参観を行い、「サステナビリティ」という学域全体の教育理念について理解を深めた。</p> <p>・後期開講の学域共通科目「知識情報システム学概論」「環境社会システム学概論」「教育福祉学概論」「心理学概論」の 4 科目では、授業の最終回（第 15 回）において、各科目の担当者が対談形式で講義を行うことで、各学類や各教員の専門性のみにとらわれず、科目間のつながりやカリキュラム全体について意識するように促した。</p> <p>・大学院博士前期課程「現代システム科学特別演習 1」「現代システム科学特別演習 2」において、他の教員が指導する大学院生のポスター発表を聞き、異なる専門分野の視点からコメントを行うことにより、自らの研究指導や講義を改善するための機会を提供した。</p>		

・本研究科に在籍中の大学院生に対して「大学院授業内容に関するアンケート」を実施し、大学院授業改善のための参考とした。実施期間：2022年12月12日～2023年2月24日。

5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）

全教員に GPC データを共有し、自身の成績評価について今後の参考とするとともに、評価基準についての意識改善を促した。

とりわけ、学域全体の必修科目「情報システムとサステイナビリティ」「自然システムとサステイナビリティ」「社会システムとサステイナビリティ」「人間システムとサステイナビリティ」の4科目については、GPC の差が大きくなりすぎないように、学域教務委員会で情報を共有し、今後の評価のあり方について検討した。

研究科企画運営会議において、研究科が授業管理をする 2021 年度後期（府大人間社会システム研究科）、2022 年度前期授業（府大、公立大現代システム科学研究科）の GPC 一覧のうち、受講生 15 名以上の科目を重点的に、成績評価の分布の状況が担当教員に事情を確認する必要があるような特別な状況になっている授業はないか、点検を行った。

6. 年に1回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 [実数]（必ずご記入ください）

- ・年に1回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 （ 71 ）人
- ・所属内の専任教員の人数 （ 71 ）人

7. その他、追記事項

なし。

2022 年度 部局 FD 活動報告

文学部・研究科

1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください） 文学部内に FD 委員会（教員 3 名、うち 1 名が委員長）を設置		
2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
2022 年 11 月 26 日	大学院博士前期課程修了者座談会※文学研究科フォーラムの 1 プログラムとして実施。	約 30 名
2023 年 1 月 27 日	FD 研修会 1 海外志向と国際交流の重要性※2022 年度共通テーマ「大学院生のキャリアパスを考える」	約 45 名
2023 年 2 月 17 日「	FD 研修会 2 大学教育実習を振り返る※2022 年度共通テーマ「大学院生のキャリアパスを考える」	約 50 名
3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第 1 回 (*月*日) ~について」 「第 2 回…」と記載)	委員の人数
FD 委員会	「第一回 (7 月 26 日) 今年度の取り組みについて」	3
FD 委員会	「第二回 (10 月 6 日) 大学教育授業実習制度について・今年度の FD 研修会について」	3
FD 委員会	「第三回 (メール審議・12 月) FD 研修会の開催について」	3
4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）		
5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください） お送りいただいた資料を教授会で回覧し、認識を共有する（3 月教授会）。		
6. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 [実数]（必ずご記入ください） ・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 (48) 人 ・所属内の専任教員の人数 (61) 人		
7. その他、追記事項		

2022 年度 部局 FD 活動報告

法学部・研究科（法学政治学研究科）および研究科法曹養成専攻

1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）

【法学部・法学研究科】教育改革委員と部局教務委員が法学部・法学研究科（法曹養成専攻を除く）の FD を担当し、定例（月 1 回）の研究教育体制検討委員会で FD を取り上げて検討している。年に数回、学部および研究科の全員が参加する教授会と同日に FD 集会を開催し、全体での情報共有と議論を行っている。また、部局の全教員・職員をメンバーとする Microsoft Teams に FD 専用チャンネルを設置しており、常時 FD に関する通知および議論を行っている。学生との関係では、法学会による新入生歓迎会や法学カフェなどの交流行事を開催している。

【法曹養成専攻（ロースクール）】法曹養成専攻 FD 委員（専任教員 2 名・実務家教員 1 名）を中心に、前・後期各 1 回の定例 FD 集会（兼任教員・非常勤講師も参加可能）を専攻会議開催日に行い、各学期の授業アンケート結果及び定期試験成績を踏まえた議論に加え、授業改善方法についての報告・議論を行う。クラス担任面談は毎年 5 月頃に全員に対して行い、必要な情報を共有する。学外委員との教育課程連携協議会を年 2 回開催する。アカデミックアドバイザー（本専攻出身若手弁護士に就任を依頼）との意見交換会を年 2～3 回行う。

2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催

開催日	内容（タイトル）	参加者数
【法学部・法学政治学研究科】		
なし	なし	
【法曹養成専攻】		
2022 年 10 月 12 日	山本健司特任教授による報告（テーマ「文書作成能力の涵養について」）と意見交換	23 名

3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催

会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第 1 回（*月*日）～について」 「第 2 回…」と記載）	委員の人数
【法学部・法学政治学研究科】		
FD 関係ディスカッション（Microsoft Teams チャンネル）	常時開設（授業方法の情報交換その他 FD 事項の自由な議論）	参加者 38 名
FD 集会	第 1 回（12 月 7 日）初年次ゼミナールの振り返りおよび授業アンケート結果の共有 第 2 回（3 月 6 日）成績 GP 分布・GPC の共有および検討	参加者 38 名
研究教育体制検討委員会	定例（毎月）カリキュラム関連事項のほか適宜 FD 関連事項を検討	8 名

【法曹養成専攻】		
FD 集会	第1回（5月11日）2021年度後期授業アンケート結果・成績分布等をふまえた検討・授業方法に関する情報共有の方法に関する検討 第2回（10月12日）授業方法に関する情報交換・2022年度前期の授業アンケート結果および定期試験結果をふまえての意見交換	参加者 22名 参加者 23名
教育課程連携協議会	第1回（9月22日）論述能力の涵養とカリキュラムのあり方・標準年限終了率および留年率と法科大学院の目的との関係に関する意見交換 第2回（3月開催予定）教育課程に関する意見交換	5名（うち学外委員3名）
AA（アカデミック・アドバイザー）との意見交換会	第1回（8月3日）前期の実施状況をふまえた意見交換と今後の体制についての検討 第2回（3月1日）後期の実施状況をふまえた意見交換と今後の体制についての検討	実定法科目担当者を中心とする法曹養成専攻教員及びAA

4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）

<p>【法学部・法学政治学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪公立大学法学会と連携して新入生歓迎会（4月）、法学カフェ（6月および1月）、学生論文コンクール（2-3月）の行事を継続、学部生・大学院生との交流懇談の機会を確保 ・演習担当教員・教務委員等を通して、留学生や成績不振学生を対象にした個別の学習相談を行う ・授業アンケート方法の改善の検討と実施、結果共有 <p>【法曹養成専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任面談の実施と情報共有（5月） ・定期試験後の答案指導の実施状況に関する教員アンケート実施及び情報共有（6月） ・成績不良学生と実定法科目担当教員との臨時懇談会の実施（10月19日開催） ・授業アンケート方法の改善の検討と実施（後期授業アンケート以降実施）

5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）

<p>【法学部・法学政治学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月6日開催の第2回FD集会にてGP分布およびGPC分布のデータを共有し、評価基準に関する認識を共有し課題を検討した。 <p>【法曹養成専攻】</p> <p>全科目の成績分布は、各学期の定期試験後の法曹養成専攻FD集会で毎回共有して意見交換を行い、評価基準に関する認識の共有を図っている。</p>

6. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数〔実数〕（必ずご記入ください）

<p>【法学部・法学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (38)人 ・所属内の専任教員の人数 (38)人 <p>【法曹養成専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (11)人 ※法科大学院専任教員の人数

・所属内の専任教員の人数

(11)人 ※法科大学院専任教員の人数

7. その他、追記事項

なし

2022 年度 部局 FD 活動報告

経済学部・研究科

<p>1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）</p> <p>部局内で FD 委員会などは設けず、全学委員としての教育改革委員が主に FD の検討・実施をおこなっている。</p>		
<p>2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催</p>		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
2022 年 12 月 9・10 日	学生ゼミ主体の他大学の学生ゼミとの研究発表討論会（全 22 セッション）	9 名
2023 年 3 月 20 日	2022 年度 経済学研究科・経済学部の GP 分布・GPC：分析結果の報告	39 名
<p>3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催</p>		
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第 1 回（*月*日）～について」 「第 2 回…」と記載）	委員の人数
<p>4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 旧大阪府立大学大学院経済学研究科：ピア授業参観 ● 旧大阪府立大学現代システム科学域マネジメント学類：ピア授業参観 		
<p>5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）</p> <p>添付資料に基づき、教育改革委員が実行したデータ分析の結果を報告し、意見交換を行った。（報告内容の詳細は添付資料を参照のこと。）</p>		
<p>6. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 [実数]（必ずご記入ください）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 (39) 人 ・所属内の専任教員の人数 (43) 人 		
<p>7. その他、追記事項</p> <p>本年度は部局の統合 1 年目のため、学部・研究科の教務担当教員との連携が不十分で、教育改革委員から教務への依頼伝達や、教務のうち FD に関わる業務の整理が不十分であった。次年度は教育改革委員と、部局内の DF 活動に直接・間接的に関わる担当者との連携をまず図りたい。</p>		

2022 年度 経済学研究科・経済学部の GP 分布・GPC：分 析結果の報告

教育改革委員：鹿野

2023 年 3 月 20 日

1. はじめに

1.1. 経緯

- 第 8 回教育改革委員会（2022 年 12 月 13 日）資料「報告事項 1：各部局における GP 分布・GPC の活用・報告について」（抜粋）
 1. 各部局への依頼事項
 - 1) GP 分布・GPC データの各部局での展開・共有と、授業改善などへの活用
科目毎の GP 分布については授業形態や、難易度によって異なる為、科目毎に確認するのみではなく、部局内で議論のうえ、教育課程全体として改善を図れるように部局全体のものとしての活用をお願いいたします。
 - 2) 1) で実施した各部局での活用内容について、各部局 FD 報告内での報告
- 提供された GP データを各部局で分析し、結果を共有したい。

1.2. 分析の目的

- 現在開講されている科目の様子を、データから俯瞰する。
- FD の観点から、有益なデータ分析の方法を模索する。

1.3. 提供されたデータ

- データセット：2022 年度前期の科目
 1. 【公】2022 前_GPC_経済学研究科.xlsx：大阪公立大学経済学研究科（旧大阪市立大学経済学研究科を含む）の各科目、M1 以上。
 2. 【公】2022 前_GPC_経済学部.xlsx：大阪公立大学経済学部の各科目、学部 1 年次。
 3. 【市】2022 前_GPC_経済学部.xlsx：旧大阪市立大学経済学部の各科目、学部 2 年次
 4. 【府】2022 前_GPC_経済学研究科.xlsx：旧大阪府立大学経済学研究科の各科目、M2 以上。

- 主な変数：科目名、履修者数、合格者数、GPC、GP（AA、A、B、C、F）該当数、GP 割合。
- 今回分析したデータ：【市】2022 前_GPC_経済学部.xlsx。市大の2年次生以上で、各科目の受講者数、科目数も多い。
- その他のデータの問題
 1. 【公】2022 前_GPC_経済学研究科.xlsx：各科目の履修登録者が少なく、GP が分布を成さない。
 2. 【公】2022 前_GPC_経済学部.xlsx：2科目のみ。
 3. 【府】2022 前_GPC_経済学研究科.xlsx：履修登録者のある科目が少ない。

2. 分析結果

2.1. 基本統計量

表1：各科目を観測個体とする、基本統計量。

- 各科目の履修生は平均122人、中央値84人ほど。
- GPCの平均値2.08、中央値1.88。
- 合格割合の平均は74パーセントほど。

	平均	標準偏差	最小値	Q25	中央値	Q75	最大値
履修生数	122.61	117.79	1.00	16.75	84.00	230.50	314.00
GPC	2.08	0.84	0.59	1.50	1.88	2.81	4.00
合格割合	73.98	21.10	28.81	56.30	78.43	92.31	100.00
AA 割合	26.02	21.10	0.00	7.69	21.57	43.70	71.19
A 割合	11.40	10.78	0.00	1.35	9.76	18.43	35.71
B 割合	14.01	13.62	0.00	4.23	12.25	19.84	60.00
C 割合	25.43	21.68	0.00	13.53	18.52	33.58	100.00
F 割合	23.14	24.99	0.00	5.02	14.22	30.11	100.00

表1：基本統計量

2.2. クラスサイズ（履修生数）、GPC、合格率の分布

- 図1：履修生数、GPC、合格率のヒストグラムと経験累積分布、および正規分布との比較
- 15人以下の科目と、250人以上のクラスが多い（少人数科目のほとんどは、ゼミ・演習科目）
- GPCは正規分布に近く分布。
- 履修生の8割以上を合格させる科目が多い。

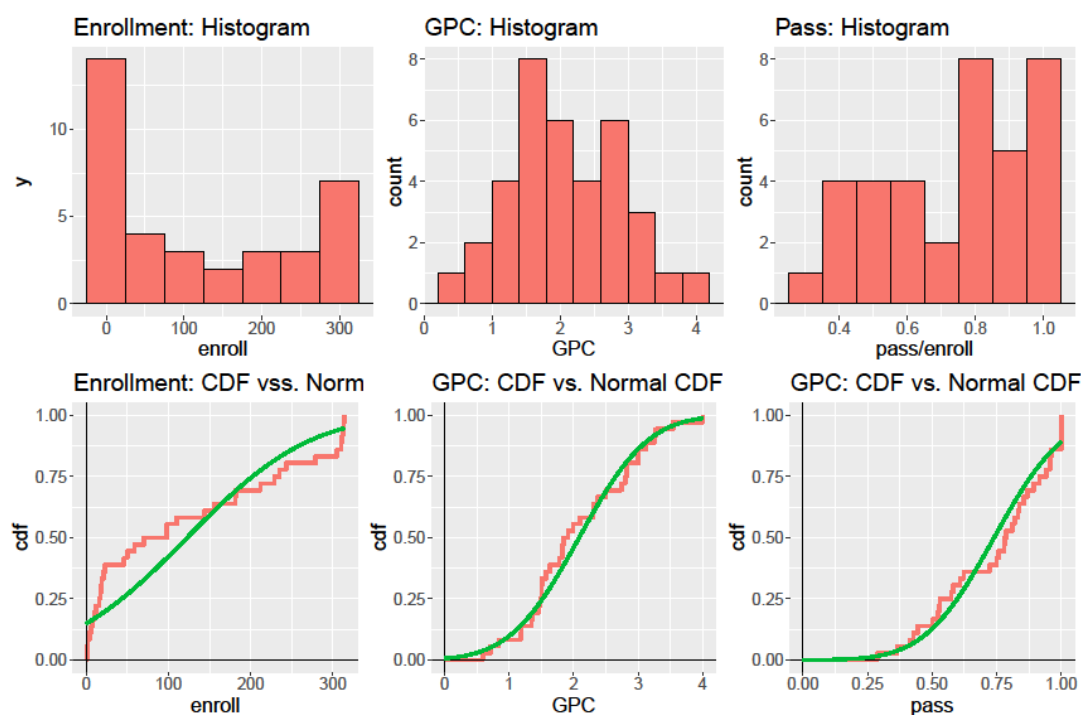


図1：履修生数、GPC、合格率のヒストグラム

2.3. GPC、合格率とクラスサイズ（履修生数）の関係

- 図 2：GPC と履修生数、合格率と履修生数の関係を、散布図に描写。⇒6NN と 6 次 の多項式をフィット
- クラスサイズが非常に小さいと非常に大きい場合、GPC と合格率が高い。
- クラスサイズが 50~250 の領域：クラスサイズが大きいほど GPC と合格率、特に後者が高くなる傾向。

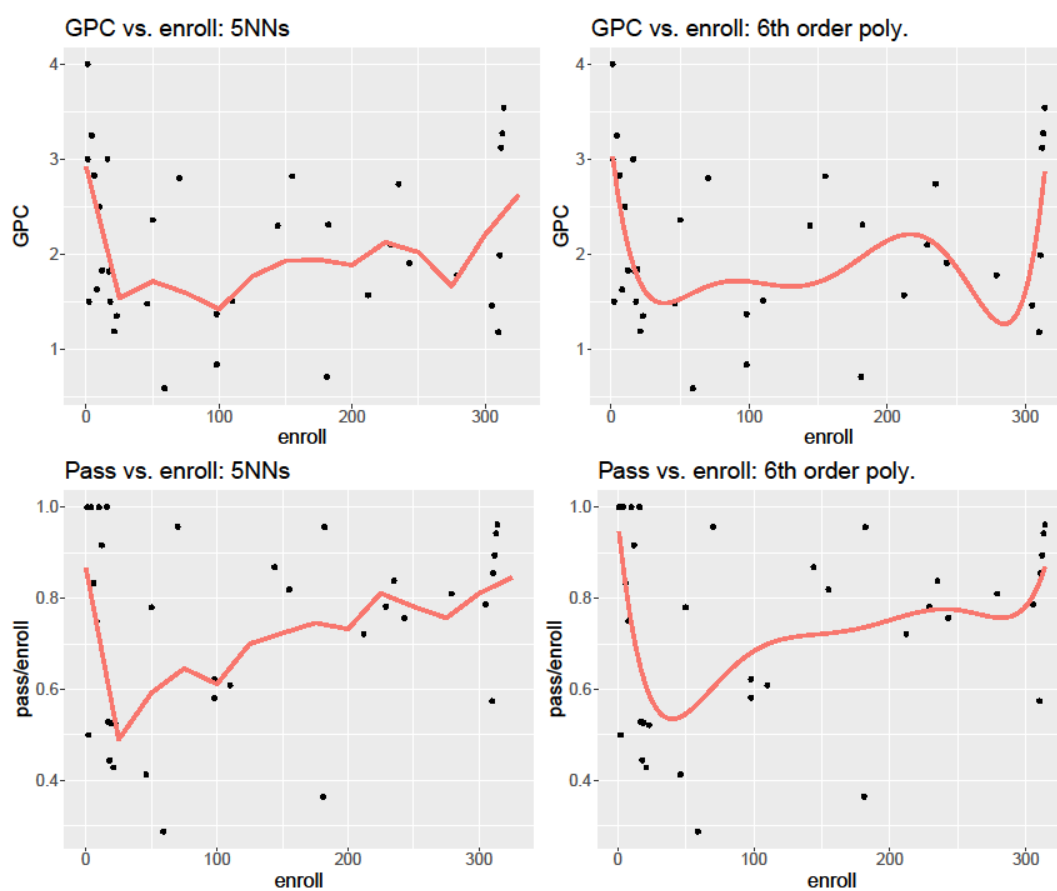


図 2：GPC と履修生数、合格率と履修生数の関係

2.4. GP の分布

- 図3：全科目を合計したもとの GP 分布と、個別の科目の GP (例として科目 1、2、3)。
- 当然、全体の分布に近い分布、遠い分布をもつ科目がある。

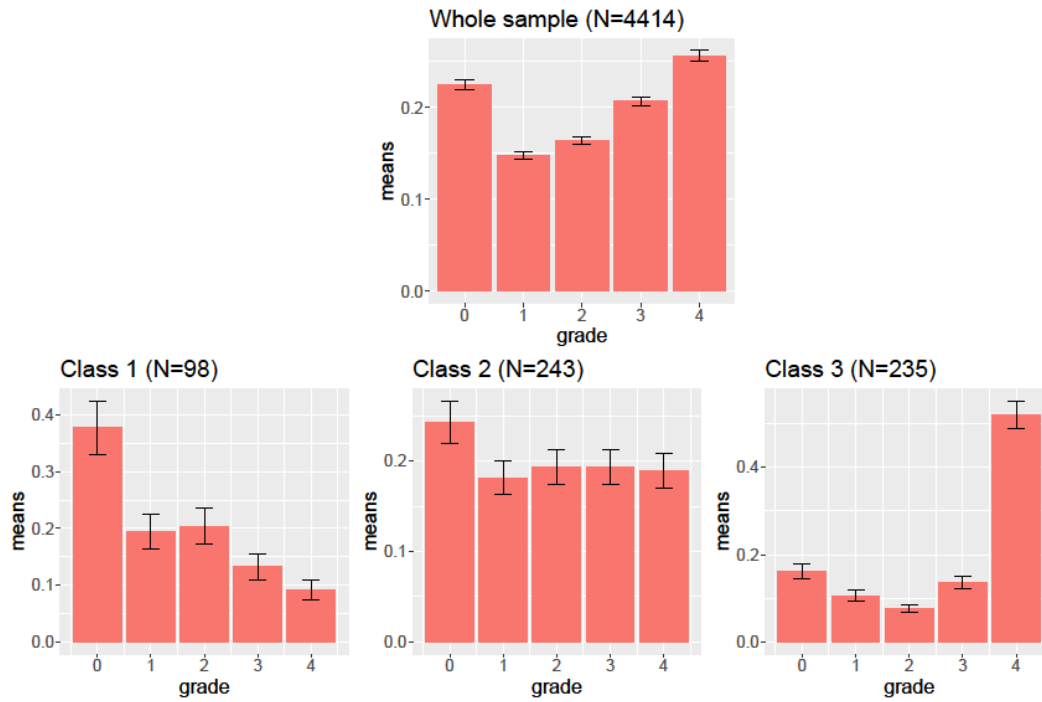


図3：全科目を合計の GP 分布と個別科目の GP 分布

2.5. 各科目 GP 分布の全体からの乖離

- 各科目の GP 分布の、全体的な傾向からの乖離を測るため、全体の分布を理論値とする適合度検定のカイ 2 乗分布を求める。(実質的には、当該科目とそれ以外の科目全体の独立性の検定。)
- 問題点：各科目で観測数 (履修生数) が異なる。⇒観測数 (履修生数) が多いほど、カイ 2 乗検定の検出力が高まる。つまり単純比較できない。
- 対策：カイ 2 乗統計量を観測数 (履修生数) で割る。(近似的な F 統計量。)
- 図 4：履修生数当たりのカイ 2 乗統計量を、降順で並べ替え比較。
- 先に挙げた科目 1、2、3 の GP 分布と、上記統計量の対応関係。

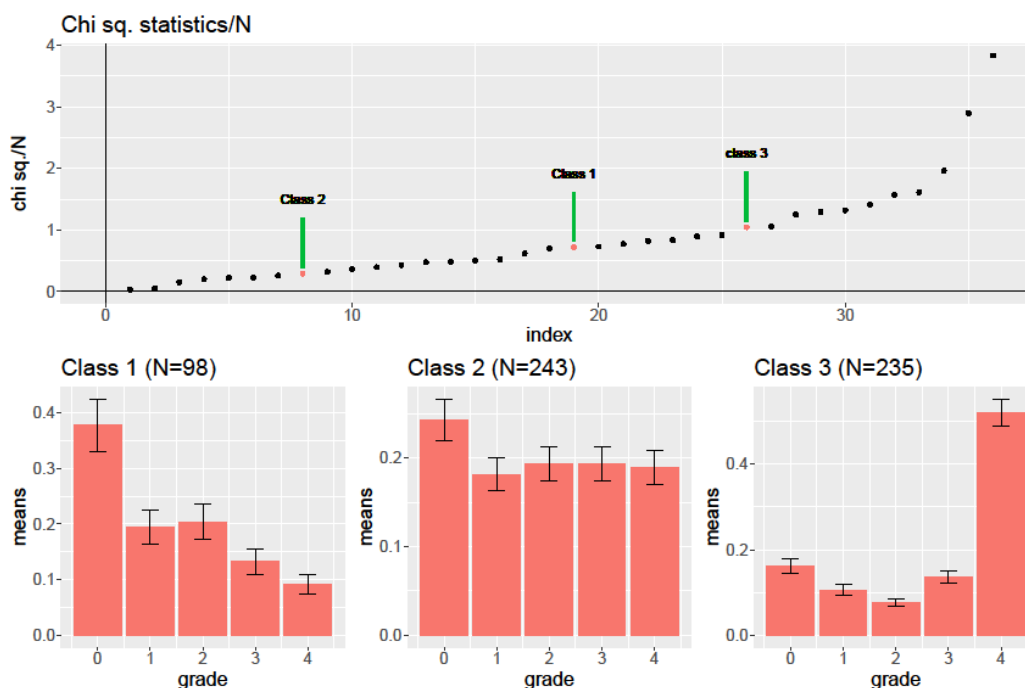


図 4：全体からの乖離を測る履修生数当たりのカイ 2 乗統計量

3. 終わりに

- 今後も定期的に同様の要請があると思われるので、少しずつ手順を確立しておきたい。(分析のルーチン化、各年の比較可能なデータ整理。)
- FD の観点から役に立つデータの整理法、視覚化を検討したい。

2022 年度 部局 FD 活動報告

商学部学部・経営学研究科

<p>1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）</p> <p>教育の内部質保証委員会（研究科長、副研究科長、副研究科長、研究審議会第 5 号構成員）</p> <p>同委員会で年度毎に FD 研修について実施内容検討</p>		
<p>2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催</p>		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
2022 年 7 月 20 日 12:30-13:15	Zoom ミーティング 講義での Moodle 活用例 中山雄司教授より講義での Moodle 活用例について講演 各種ボタンの機能とその用例 質疑応答	29
<p>3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催</p>		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第 1 回 (*月*日) ~について」 「第 2 回…」と記載)	委員の人数
教育の内部質保証委員会	第 1 回(2022 年 6 月 8 日)FD 研修会開催について 第 2 回(2022 年 9 月 6 日)2022 年度前期成績分布状況の確認について 第 3 回(2022 年 10 月 12 日)2022 年度前期成績分布に関するアンケート内容と教授会説明について 第 4 回(2022 年 11 月 9 日)2022 年度前期成績分布に関するアンケート結果確認について	4
<p>4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）</p> <p>・成績不振の学生に対する学習相談 一定の基準にもとづいて成績不良者（留年・仮進級生）をリストアップし、専門ゼミナールに所属している学生についてはゼミ教員が、専門ゼミナールに所属していない学生については、1 回生時のプロ・ゼミナール担当教員や教務委員等が直接面接・連絡し、学生の状況を把握するとともに、学力向上の方法について共に考える機会を作った。</p> <p>・経営学会主催の大学院生向け研究会の実施</p>		

2022年7月25日、15:00-16:30 (学術情報総合センター9階・情報教育実習室9C)

参加者約30 (大学院生・教員)

大学院生向け研究会は、経営学研究科の大学院生 (主に新入生) 向けに開催しており、若手教員である林侑輝先生が報告された。大学院進学から現在までの体験を交えながら、研究上の課題や解決策など広く「研究の方法」について紹介し、大学院生や教員からの質問に答えて懇談した。大学院生にとっては、研究の方法を学ぶ良い機会になった。

・『CORE (学生論文集)』優秀論文の表彰

2022年10月17日

受賞者: 専門ゼミナールの7チーム

『CORE・学生論文特別号2022』に掲載された論文23本の選考を行い、優秀論文7本を決定。受賞者は商学部ホームページにて発表した。商学部の専門ゼミナールでの学生の勉強意欲を高めるための試みであった。

・令和4年度商経人権研修会

2023年1月18日 13:00-14:00 (オンライン開催)

講演: 明戸隆浩氏「ハラスメント概念の歴史と現在」

明戸氏よりハラスメント概念の広がりや、欧米における整理の議論について講演があった。これに対して大学のハラスメント規定に関する質問などがあった。議論を通じてハラスメントを体系的に理解することの重要性に対する理解が深まった。

経営学研究科からは32人が参加した。

・優秀GPA学生の表彰

3月24日の学位授与式で表彰を行う予定

5. 成績GP分布、GPCデータの分析に関連する事柄 (必ずご記入ください)

教育の内部質保証委員会で成績分布を確認し、不合格が2割以上の教員を対象に原因分析と改善策に関するアンケートを実施する。アンケート結果を教授会で報告する。

6. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 [実数] (必ずご記入ください)

・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (36) 人

・所属内の専任教員の人数 (39) 人

7. その他、追記事項

--

2022 年度 部局 FD 活動報告

都市経営研究科

<p>1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）</p> <p>遠藤尚秀 都市経営研究科 研究科長 小関珠音 同 総務委員</p>														
<p>2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>内容（タイトル）</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2022年8月4日</td> <td>『研究公正』</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>後日 録画公開</td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			開催日	内容（タイトル）	参加者数	2022年8月4日	『研究公正』	15	後日 録画公開		5			
開催日	内容（タイトル）	参加者数												
2022年8月4日	『研究公正』	15												
後日 録画公開		5												
<p>3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>会議・委員会名</th> <th>内容・開催日 （複数回の場合は「第1回（*月*日）～について」 「第2回…」と記載）</th> <th>委員の人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第1回（*月*日）～について」 「第2回…」と記載）	委員の人数									
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第1回（*月*日）～について」 「第2回…」と記載）	委員の人数												
<p>4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）</p>														
<p>5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）</p> <p>成績 GP 分布、GPC データ受領後速やかに研究科教務委員会とデータの共有を図り、1月の同委員会においてその利活用方策について検討を行った。委員会の結論としては、大学院ということで他の研究科同様サンプル数が少ないこと、社会人大学院ということでさらに年度によって振幅が大きいことなどを鑑みると、現時点において直接的に当該データの利活用を図ることは困難であり、当面は利用しない方向であることを確認した。なお、委員会の検討においては、今後他研究科における利活用の事例が出てきた段階で改めて検討を行う余地もあるのではないかと意見も出された。</p>														
<p>6. 年に1回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 [実数]（必ずご記入ください）</p> <p>・年に1回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 （ 20 ）人 ※FD には特任教授も参加 ・所属内の専任教員の人数 （ 13 ）人</p>														
<p>7. その他、追記事項</p> <p>上記『研究公正』の具体的内容は以下の通り。</p> <p>①研究公正・研究倫理とは（仮称）（約20分） －質疑応答－（約15分）</p> <p>②都市経営研究科倫理審査体制の現状、研究公正授業について（約15分）</p>														

－質疑応答－（約5分）

③都市経営研究科における今後の「研究倫理教育」の受講について（紹介のみ）

講 師：①本学国際基幹教育機構 市田秀樹教授、②服部准教授、③遠藤研究科長

2022 年度 部局 FD 活動報告

情報学研究科

<p>1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください） 教務委員が中心となり FD を検討・実施している。</p>														
<p>2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>内容（タイトル）</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>			開催日	内容（タイトル）	参加者数									
開催日	内容（タイトル）	参加者数												
<p>3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>会議・委員会名</th> <th>内容・開催日 （複数回の場合は「第 1 回（*月*日）～について」 「第 2 回…」と記載）</th> <th>委員の人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回基幹情報学専攻 FD 会議</td> <td>基幹情報学専攻の授業実施内容の検討・2月28日</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>第 1 回学際情報学専攻 FD 会議</td> <td>コロナ下での授業の実施形態，学習支援方法に関する検討・8月4日</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>第 2 回学際情報学専攻 FD 会議</td> <td>学際情報学専攻の授業実施内容の検討・3月9日</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table>			会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第 1 回（*月*日）～について」 「第 2 回…」と記載）	委員の人数	第 1 回基幹情報学専攻 FD 会議	基幹情報学専攻の授業実施内容の検討・2月28日	21	第 1 回学際情報学専攻 FD 会議	コロナ下での授業の実施形態，学習支援方法に関する検討・8月4日	27	第 2 回学際情報学専攻 FD 会議	学際情報学専攻の授業実施内容の検討・3月9日	27
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第 1 回（*月*日）～について」 「第 2 回…」と記載）	委員の人数												
第 1 回基幹情報学専攻 FD 会議	基幹情報学専攻の授業実施内容の検討・2月28日	21												
第 1 回学際情報学専攻 FD 会議	コロナ下での授業の実施形態，学習支援方法に関する検討・8月4日	27												
第 2 回学際情報学専攻 FD 会議	学際情報学専攻の授業実施内容の検討・3月9日	27												
<p>4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft Azure Dev Tools for Teaching を利用し、所属学生が授業の自習・研究に利用可能なプログラミング開発環境を提供した。 ・ ベトナムの Posts and Telecommunications Institute of Technology 大学の教員による研究室訪問をうけ、研究と学生の国際交流について意見交換した（7月28日）。 ・ 授業アンケート、ループリック調査等を利用し、授業や学生指導の継続的に改善検討を行った。 ・ コロナ下での授業の実施形態，学習支援方法に関するアンケート結果を共有して意見交換した。 														
<p>5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）</p> <p>FD 会議において成績 GP 分布を共有し確認した。</p>														
<p>6. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 [実数]（必ずご記入ください）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 （ 55 ）人 ・ 所属内の専任教員の人数 （ 55 ）人 														

7. その他、追記事項

--

2022年度 部局 FD 活動報告

理学部・理学研究科

<p>1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。(必ずご記入ください)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学研究科FD委員会を設置 ・委員長は教育改革委員が担当し、各専攻から委員を選出 ・教育改革委員会の議事録、議事資料等の全情報を理学研究科FD委員会に開示 ・各学科・専攻においては独自かつ自由なFD活動を実施 ・理学研究科FD委員会で各学科・専攻の活動を報告 		
<p>2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催</p>		
<p>○数学科・数学専攻</p> <p>数学科FDミーティングを、大阪公立大学として統合後、杉本、中百舌鳥両キャンパスにおける前後期講義に関する意見交換、今後に向けた課題に対する認識及び共有を図ることを目的として定期的に行っている。</p>		
開催日	内容(タイトル)	参加者数
4/2	新入生オリエンテーション	41名(新入生)
11/1	修士論文中間発表会	約25名
1/13	卒業研究配属説明会	約40名
2/9	修士論文発表会	約25名
2/10	卒業研究発表会	約50名
2/16	大阪公立大学理学研究科&数学研究所共催 FD研修会「新たな大学院教育のためのFD研修会」 —理論物理と数学—	約40名 (杉本キャンパスにおいて対面, zoomにより開催される。途中退出者がいたため、参加者数を概数として記載)
3/28	大阪公立大学数学研究会論文賞及び特別賞授賞式・受賞講演	約20名
<p>○物理学科・物理学専攻</p> <p>教室会議・運営委員会における教員間の情報共有と議論、談話会における学外者による講演、学生ガイダンスや3年生への研究室紹介における学生からのフィードバック、修士論文発表会・博士論文公聴会における教育成果の検証。</p>		
開催日	内容(タイトル)	参加者数

6/1	新入生歓迎セミナー	約 80 名
11/21~12/23	研究室紹介	約 50 名
2/15	卒業研究発表会	約 60 名
2/20,21	修士論文発表会	約 60 名
8/1, 8/3, 1/27, 1/31, 2/7, 2/16, 2/17	博士論文公聴会	約 30 名
○化学科・化学専攻 専攻会議、教室会議において教員間の情報共有と議論、談話会、学際化学若手育成セミナーにおける学外者による講演等を通じて FD 活動を行っている。		
開催日	内容 (タイトル)	参加者数
4/2	新入生ガイダンス	約 90 名
4/4	大学院新入生ガイダンス	約 40 名
8/12	大阪公立大学化学セミナー	約 150 名程度
8/2, 2023/2/2	学位論文公聴会	約 60 名
2023/1/13	研究室ガイダンス	35 名
1/11, 1/20, 1/30, 2/21, 2/10	学際化学若手育成フォーラム(全 7 回): 研究とキャリアパスに関する講演会シリーズ	平均 30 名程度
2/9	卒業研究発表会	約 100 名
3/2, 3	修士論文発表会(予定)	約 150 名
3/9	第 1 回学際化学若手育成シンポジウム(予定) 研究とキャリアパスに関する講演会からなるシンポジウム	約 50 名
○生物学科・生物学専攻 生物学専攻会議において、教員間の情報共有と議論を通して FD 活動を行っている。		
開催日	内容 (タイトル)	参加者数
4/4	学年ガイダンス	各学年の学生も含めて平均 30 名
8/25, 12/27	学位公聴会	学生を含めて 50 名程度
1/31	修士論文発表会	学生を含めて 150 名
1/26, 27	研究室ガイダンス	学生を含めて 35 名
2/9	卒業研究発表会	学生を含めて 150 名
○地球学科・地球学専攻		

地球学科構成員全員で、カリキュラムの運営、学生の成績分布、履修状況などの情報を共有し、課題や対策の議論を通じて、FD活動を進めている。

開催日	内容（タイトル）	参加者数
4/2	1年生, 大学院1年生履修ガイダンス, 研究室紹介	1年学生 26名と教員 15名
5/9~11	2年生の個別面談	2年学生 22名と担任
7/6	3年生の履修状況確認と地球学演習Ⅲの配属の説明会	3年学生 24名と主任
9月後半~10月	1年生の履修状況確認とフィードバックの実施 (10/14)	1年学生 26名と学生アドバイザー
1/21	地球学演習Ⅲの発表会, 研究室配属ガイダンス	1から3年学生約 70名, 教員 12名
2/9	修士論文発表会	学生約 40名, 教員 13名
2/16	卒業研究発表会, 研究室ガイダンス	学生約 70名, 教員 13名
3/27	新 2, 3, 4 年生履修ガイダンス, 研究室紹介	学生約 70名, 教員 4名

○生物化学科・生物化学専攻

生物化学科専攻会議構成員（生物化学専攻教授、准教授、講師）が主体となり、当該専攻および学科のFD活動を実施している。授業内容に関しては、授業ふり返り（授業評価アンケートを含む）の実施ならびにその回答を活用し、専攻会議構成員内で共有し、FD活動の促進を図っている。

開催日	内容（タイトル）	参加者数
4/2	新入生オリエンテーション	学生を含めて 40名
6/17, 6/24	研究室ガイダンス	学生を含めて 55名程度
9/2	博士論文中間発表会	学生を含めて 約 30名
9/5	修士論文中間発表会	学生を含めて 約 60名
2/22	博士論文公聴会	学生を含めて 約 50名

2/24	修士論文発表会	学生を含めて 約 80 名
2/28	卒業研究発表会	学生を含めて 約 80 名
3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第 1 回 (*月*日) ~について」「第 2 回 …」と記載)	委員の人数
数学科 FD ミーティ ング	杉本, 中百舌鳥両キャンパス数学科専任教員が会する年度内2回の 機会を FD ミーティング開催に活用している. 本年度は以下のとおり 実施: 第1回 8 月 25 日 (木) 数学科 FD ミーティング, 第2回 2 月 26 日 (日) 数学科 FD ミーティング, 当 FD ミーティングでは, 前後期講義に関する意見交換及びそれらに 対する今後の課題を共有することを目的として実施している.	41 名 (数学科専任 教員)
物理学専攻教室会 議	「専攻長会議教務事項報告を受けて」 4/12,5/10,5/31,6/28,8/2,8/30,9/30,10/28,12/23,1/27,2/24,3/31	46 名
物理学教室運営委 員会	「学部・大学院入試について」4/27, 5/18, 5/25, 7/13, 8/10, 8/17, 8/31, 9/28, 11/30, 1/25 「研究室配属について」6/29, 8/3, 8/17, 9/21, 10/26, 11/2, 11/30, 12/14, 12/21, 1/25 「学部・大学院カリキュラムについて」5/25, 7/27, 8/31, 10/5, 10/19, 10/26, 11/9, 11/16, 11/30, 12/7, 12/14, 3/8 「学位の授与について」9/21, 10/5, 2/8 「研究指導について」6/8	25 名
化学専攻会議 (Zoom)・化学教科 室会議(メール会議)	「大学院入試について」2022/4/22, 7/15, 9/16, 10/14, 11/11, 12/16, 2023/1/13, 「学部入試について」5/20, 7/15, 10/14, 12/16, 2023/1/13, 「学位論文の申請・評価基準について」4/22, 5/20, 6/10 「転学科について」7/15 「飛び級について」11/11, 12/16, 2023/1/13	約 45 名参加
生物学専攻・生物 学科教室会議	「教職課程について」4/7 「専攻長会議教務事項報告を受けて」5/2, 5/17, 5/30, 6/10-15, 6/14-20, 6/30, 8/4, 9/1, 9/1-7, 10/4, 11/7, 11/30, 12/5, 12/8, 1/5, 1/30, 2/27, 3/28	平均 23 名参 加
生物学専攻・大学 院運営委員会	「学位申請について」8/25, 12/5, 12/27	平均 10 名
生物学専攻・拡大 教務委員会	「進級要件について」11/30	4 名

<p>生物学専攻・生物 学科教授会</p>	<p>「大学院入試について, 学部入試について」4/22, 5/9, 5/17, 7/15 「大学院早期修了について」5/27, 「学部入試の科目について」6/10, 1/6 「指導教員について」8/17, 8/26-29, 9/6 「大学院入試と学生の所属研究室について」10/28 「学位申請について」12/19 「推薦入試, 一般入試について」11/29 「論文博士について, 大学院入試について」12/16 「論文博士について」12/19-23, 1/6, 1/13</p>	<p>平均 9 名</p>
<p>地球学専攻会議</p>	<p>専攻長会議教務, FD 事項報告・案内. . 4/25, 5/10, 6/15, 7/7, 9/26, 10/24, 11/29, 12/27, 1/17 カリキュラム, 学生の履修に関する議論. . 4/25, 7/4, 7/28, 9/26, 10/24, 11/29, 12/27 学部入試, 大学院入試に関する議論. . 4/25, 6/15. 7/4, 7/28, 8/26, 9/26, 10/24, 12/27, 大学院前期博士課程への進学に関する議論. . 7/4, 7/28 Zoom にて上記会議を実施, その他, 上記に関する内容はメール会 議にて複数回の議論を実施した</p>	<p>平均 15 名参 加</p>
<p>生物化学専攻・生 物化学科教室会議</p>	<p>第 1 回(4 月 28 日)「研究室ガイダンスについて」 第 2 回(5 月 26 日)「研究室ガイダンスについて」 第 3 回(6 月 23 日)「時間割の作成について」 第 4 回(7 月 28 日)「時間割の作成、博士後期課程中間発表会およ びオープンキャンパスについて」 第 5 回(9 月 5 日-9 月 9 日)「学生の修学指導について」 第 6 回(9 月 22 日)「学生の就学状況(学生異動・成績を含む)など についての情報の把握と共有、学生の修学指導について」 第 7 回(10 月 27 日)「成績優秀者の選定方法について」 第 8 回(11 月 24 日)「学生の就学状況(学生異動・成績を含む)など について」 第 9 回(12 月 22 日)「教職課程について、博士後期課程の学位論文 の取扱いおよび審査について」 第 10 回(1 月 26 日)「2023 年度の教務・カリキュラムについて、修士 論文、卒業研究発表会について」 第 11 回(2 月 24 日)「生物化学科 現 1 回生の中百舌鳥キャンパス 見学について」 第 12 回(3 月 23 日)「学生の就学指導について」</p>	<p>平均 12 名</p>
<p>4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組 (但し、成績 GP 分布関連は次項に)</p>		
<p>理学部・理学研究科全体の当初取組予定を記す。 (1)シラバスを活用した授業科目間の連携強化</p>		

(2)大学院博士前期課程の研究教育の充実

(3)デジタルコンテンツの拡充と活用の推奨

(4)学期ごとの単位修得状況の把握と成績不振な学生に対する学習相談

(5)他部局または学外におけるFD活動に関する情報共有

(6)ポートフォリオシステム(ていら・みす)活用の推奨

上記項目について各学科・各専攻レベルもしくは各担当者レベルで取り組みを行っているところである。

理学研究科数学専攻・数学研究所(OCAMI)は、数学教育の充実を図るため、学生、教職員、研究者、一般の方を対象に、大学院教育をはじめとする新しい数学教育の展開のためのFD研修会を、多様な分野から研究者を招聘し開催している。これは、阪市大数学教室のFD活動に遡り10年以上の活動実績がある。阪公大数学科は、このFD研修会を継承しFD活動として実施している。

「物理学演習1」担当者(教員4名)による担当者会議(講義期間中断続的に開催)。

「物理学実験WG」(担当教員による会議)を講義期間中に断続的に開催。

物理学教室運営委員会(隔週開催)において博士前期課程の教育の改善について断続的に議論している。

オムニバス科目の担当者による担当者会議(講義期間中に断続的に開催)

学生アドバイザーによる学生との個別面談(年1,2回)

動画による講義補助(複数の教員が実施)

「化学実験I~IV」、「基礎化学実験」の担当者によるWGを組織し、実験コンテンツ、実習内容の改善について年間を通じて継続的に議論している。

生物学科・生物学専攻においては、理学部・理学研究科が掲げる取り組み予定にしたがって活動を行っている。カリキュラム調整については、教務委員が中心となって議論を行っている。学生の単位習得状況の把握と学習相談については、各学年の担任・副担任が主体的に活動を行うとともに、学科・専攻教授会において議論を重ねている。また、オムニバス授業に関しては、随時担当者間での議論を行っている。

「測量及び地質調査法1,2実習」や「地球学野外実習1,2」、「地球学実験A,B」などのオムニバスの実習科目に関しては、担当者間で議論をおこない、カリキュラム運営の改善について継続して検討をおこなっている。

関連する科目間のシラバスやポートフォリオシステムの検討を通じて、カリキュラムの改善を進めている。

学生アドバイザーや担任と学生との面談を年1-2回実施した。

生物化学科では時間割やシラバス登録内容など、課程内の教務・カリキュラム上の意見調整などを行った。また、ポートフォリオシステム(ていら・みす)内の学生による授業ふり返りコメントを基に、授業の設計、実施の見直しなどの検討を行っている。生物化学科の学生向けおよび大学院博士前期課程の学生向けのデジタルコンテンツをmoodleに掲載し、各学生が自学自習などで活用できる教材の拡充を図っている。生物化学科の学生の単位修得状況については、専攻会議内で共有し、成績不振者に対しては、当該学生の学生アドバイザーおよび主任との相談(学業指導)を行っている。

5. 成績GP分布、GPCデータの分析に関連する事柄(必ずご記入ください)

数学科FDミーティングにおいて、市大、府大の各GPCデータを比較した。杉本・中百舌鳥両キャンパスにおいて実施しているオムニバス講義(対面)担当者より、当講義受講者出席率が芳しくない報告有り。その理由のひとつとして受講者の対キャンパスへの移動負担及び講義分野に関するバイアスが生じている意見を受け、次年度も引き続き当講義受講者出席状況に注意し受講生出席率向上を図る。

物理学科教室会議でデータを共有し、分析・検討を行った。

化学科・専攻内で情報を共有し、各自担当講義の成績評価の参考とする。
生物学教室内で情報をシェアし、次年度の検討課題とする
地球学専門科目、基礎教育科目の GP 分布、GPC データを学科内で共有し、シラバス作成や次年度の授業の準備で本データを活用することとした。
生物化学科および専攻内にて情報を共有し、次年度の検討課題とした。
6. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 [実数] (必ずご記入ください)
・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (38) 人
・数学専攻所属内の専任教員の人数 (38) 人
・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (46) 人
・物理学専攻所属内の専任教員の人数 (46) 人
・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (45) 人
・化学専攻所属内の専任教員の人数 (46) 人
・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (27) 人
・生物学専攻所属内の専任教員の人数 (27) 人
・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (15) 人
・地球学専攻所属内の専任教員の人数 (15) 人
・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (17) 人
・生物化学専攻所属内の専任教員の人数 (17) 人
7. その他、追記事項

2022 年度 部局 FD 活動報告

工学部・工学研究科

<p>1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）</p> <p>工学研究科の全教員を対象とした FD 集会は、公立大学工学教務委員会で企画している。その他教育改善に係わる情報も工学教務委員会で共有している。また、各学科・分野ごとに FD 会議を開催することで、各科目や各教育課程に関する改善や情報共有を個別に行っている。</p>		
<p>2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会，セミナー，ワークショップ等の開催</p>		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
2022.09.02	工学 FD セミナー「教育改善のためのポートフォリオシステムていら・みず活用法」	260 人
2023. 01.20	都市系専攻開学シンポジウム（総合知で都市の課題に取り組む）	140 人程度
2022.12.02	「修士課程で論文投稿～日本の論文数を増やせるのは学生です～」（全学対象）	30 人
<p>3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議，委員会等の開催</p>		
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第 1 回（*月*日）～について」「第 2 回…」と記載）	委員の人数
第 1 回工学 FD 報告会	2022 年度の工学研究科の各学科・専攻における FD 取り組みの概要を発表し，情報を共有した（3 月 13 日）	23 人
航空宇宙工学 FD 会議	月 1 回の教室会議において，学生の履修状況や学習成果についての点検・評価と，教育の質の改善・向上に関する検討を実施：12 回	11 人
2022 年度第 1 回海洋システム工学科/分野 FD 会議	2023 年度以降機械工作実習の実施内容の検討，総合型選抜入試の広報，2024 年度入試以降の内容についての検討（4 月 26 日）	12 人
2022 年度第 2 回海洋システム工学科/分野 FD 会議	2024 年度以降の総合型選抜，FD 外部評価委員選定，JABEE 実地審査受審について協議（5 月 24 日）	12 人
2022 年度第 3 回海洋システム工学科/分野 FD 会議	2024 年度以降の総合型選抜，内部質保証スタートアップ事業，JABEE 実地審査受審について協議（6 月 28 日）	12 人
2022 年度第 4 回海洋システム工学科/分野 FD 会議	JABEE 実地審査受審受審報告，2023 年度総合型選抜第 2 次選考内容，新大学「プロジェクト 1～3」の内容再検討について協議（7 月 26 日）	12 人
2022 年度第 5 回海洋	前期成績情報報告，JABEE(内部質保証)エビデンス資料の	12 人

システム工学科/分野 FD 会議	保管期間について、転学科の選考方法・条件等について協議（9月27日）	
2022年度第6回海洋 システム工学科/分野 FD 会議	転学科の出願要件・選考方法について、2023年度時間割の検討、2023年度総合型選抜第2次選考振り返り、大学院の修了要件について協議（10月25日）	12人
2022年度第7回海洋 システム工学科/分野 FD 会議	2023年度時間割の検討、2022年度前期成績分布について協議（11月22日）	12人
2022年度第8回海洋 システム工学科/分野 FD 会議	2023年度時間割の確認、2022年度入学者成績分析について（12月28日）	12人
2022年度第9回海洋 システム工学科/分野 FD 会議	卒業研究ループリックの内容確認、外部評価委員会の開催および内容について、大学院博士前期課程の履修要件についての検討（1月24日）	12人
2022年度第10回海洋 システム工学科/分野 FD 会議	ループリックを用いた卒業研究評価について協議、2023年度以降の機械工作実習の内容検討（2月28日）	12人
2022年度海洋システム 工学科/分野 FD 外部評価委員会	分野 FD 外部評価委員会を開催。以下の内容を報告し、外部評価委員の方々より、評価・ご意見を頂戴した。 ・2022年度活動報告（入試・教育・研究） ・JABEE 審査結果 ・入学者分析、分野将来構想、研究発信状況（3月14日）	20人
2022年度第11回海洋 システム工学科/分野 FD 会議	外部評価委員からのアンケート内容の共有、海洋システム工学概論の内容について協議（学内施設見学の実施、海事産業系工場見学会の検討）（3月28日）	12人
第1回機械工学科 (杉本)FD 会議	公立大機械工学科提供の設計製作実習の実施内容の検討（2022年5月18日）	21人
第2回機械工学科 (杉本)FD 会議	公立大機械工学科提供の機械工作実習の実施内容の検討（12月1日）	19人
機械工学科・教育点 検・生活指導委員会 (中百舌島)	授業実施における問題の情報共有と、欠席過多学生や成績不良学生の情報共有、対応者の確認（5月31日、6月28日、7月26日、10月6日、12月1日、1月26日、3月30日）	21人
建築学・第9回学科会 議	学科学生教員合同 FD 会議の創設について（2月27日）	14人
第1回都市学科 FD 会 議	2021年度の卒業・修了時アンケート及び3ヶ年（2019-2021）の比較結果、2021年度後期授業評価アンケート結	19人

	果の共有（6月27日）	
第2回都市学科FD会議	卒業研究評価，GP学科比較，新大学1回生の履修状況の共有（3月27日）	20人
電子物理系FD会議	専攻教授会：12回	17人
電子物理工学（電子物性コース）FD会議	担当者会議：11回 教室会議：11回	10人 30人
第1回 電子物理工学実験（電子物性コース）FD会議	公立大電子物理工学科提供の電子物理工学実験1（なかも）の実施内容の検討（3月16日：今年度分のFD活動を前年度のうちに実施）	8人
第2回 電子物理工学実験（電子物性コース）FD会議	公立大電子物理工学科提供の電子物理工学実験2（なかも）の実施内容の検討（7月28日）	8人
電子物理工学（電子材料コース）FD会議	教室会議：10回	16人
第1回情報工学科FD会議	公立大情報工学科の授業実施内容の検討（2月28日）	28人
電気電子システム工学分野・分野教育委員会	分野全体で担当している講義の実施方針に関する打ち合わせ等（月例/4月・8月休会。10回。メール開催を含む）開催予定含む	毎回7名
電気電子システム工学分野・月例/分野教育改革会議	部局の教育委員会の情報共有し，分野の教育方針の審議などを行う（月例/8月休会，11回開催）開催予定含む	毎回22名
電気電子システム工学分野・実験委員会(1回)	分野が担当する実験に関して方針，学生の受講状況などを共有する。	10名
応用化学科 教育委員会	応用化学概論（公立大での新設科目）及び演習科目の実施内容検討 第1回（10月17日）実施内容の確認 第2回（11月14日）次年度に向けた授業改善の検討	12人/回
応用化学科 教室会議	演習・実験科目の実施状況及び公立大での新設科目準備状況の情報共有と検討 （第1回7月25日，第2回12月26日）	30人/回
化学工学・2022年度第2回教室会議と職員会議（4月25日）	公大化学工学科の化学工学序論の実施方法の検討と在学生の履修指導，新2年生，新3年生の数学や物理の履修に問題のある学生を抽出し，学生アドバイザーからの面談報告，新4年生の研究室配属後の状況について，博士前期学生の就職状況について，博士後期学生の博士論文についての進捗状況の確認	15人
化学工学・2022年度	教務委員会/教育運営委員会報告，専門科目授業の進捗状	15人

第3回教室会議と職員会議（5月30日）	況の確認、在学生の履修指導、博士前期学生の就職状況について、化学工学序論や化学工学英語演習の実施状況について、博士後期学生の博士論文についての進捗状況の確認、編入学試験の実施状況についての確認	
化学工学・2022年度第4回教室会議と職員会議（6月27日）	教務委員会／教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況の確認と中間試験の成績不審者について、博士前期学生の就職状況について、化学工学序論や化学工学英語演習の実施状況について、編入学試験の実施状況	15人
化学工学・2022年度第5回教室会議と職員会議（7月25日）	教務委員会／教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況の確認と成績不審者および多回欠席者について、博士前期学生の就職状況について、化学工学序論の研究室見学や化学工学英語演習の成績の付け方について、前期授業の成績不審者や実験科目のレポート提出状況について	15人
化学工学・2022年度第1回臨時教室会議と職員会議（8月24日）	大学院入試の状況について、化学工学談話会について、大学院A群科目の評価について、9/2の工学FDセミナーへの参加依頼、就職状況について、前期授業の成績不審者や実験科目や必修科目の不合格者について	15人
化学工学・2022年度第6回教室会議と職員会議（9月26日）	教務委員会／教育運営委員会報告、後期授業の実施方法について、博士前期学生の就職状況について、前期授業の成績不審者や実験科目や必修科目の不合格者への面談状況について	15人
化学工学・2022年度第7回教室会議と職員会議（10月31日）	教務委員会／教育運営委員会報告、後期授業について、博士前期学生の就職状況について、前期授業の成績不審者や実験科目や必修科目の不合格者への面談状況について、4年次進級が危ぶまれる学生についての面談結果について、タイ国ナレスアン高校の大阪公立大学訪問と研究室見学について、学部編入生に対して、本学域教育内容と単位認定科目間のギャップを埋めるために入学前に勉強しておくべき範囲について、博士前期課程学生への大学院博士後期進学・就職についての説明会について	15人
化学工学・2022年度第8回教室会議と職員会議（11月28日）	教務委員会／教育運営委員会報告、後期授業の実施方法について、博士前期学生の就職状況について、3年次学生の研究室紹介であるオープンラボについて、成績等のガイダンス資料について、3年次編入生へのガイダンスについて、学会関連で学生発表会および地方大会について、博士後期課程学生の博士論文の論文投稿状況について	15人
化学工学・2022年度第9回教室会議と職員会議（12月26日）	教務委員会／教育運営委員会報告、後期授業の実施方法について、博士前期学生の就職状況について、オープンラボの実施報告、卒論・修論・大学院博士前期1年学生の間接発表について、在校生オリエンテーションについて、博士	15人

	後期課程学生の博士論文の論文投稿状況について、理系学生向け春休み英語スキルアップ研修参加者募集について	
化学工学・2022年度第10回教室会議と職員会議（1月30日）	教務委員会／教育運営委員会報告、後期授業の実施方法について、2023年度学生必携PCの部局独自スペックについて、大学院博士前期1年学生の間接発表の表彰について、卒論と修論発表会の配布要旨の取扱いについて、博士後期課程学生の博士論文提出・査読状況について	15人
化学工学・2022年度第2回臨時教室会議と職員会議（2月15日）	2023年度授業の実施方法について、2023年度学生必携PCの部局独自スペックについて、後期授業の成績不審者や実験科目のレポート提出状況について、卒論と修論発表会について、博士後期課程学生の公聴会について、2023年度化学工学序論の内容について	15人
2022年度化学バイオ工学科・化学生物系専攻FD集会	2022年度化学バイオ工学科・化学生物系専攻FD集会（10月26日）にて、以下の項目について確認および討議を行った。 ○入試状況の確認 ○教育プログラムごとの振り返り ○成績分布資料の確認、成績分布資料の確認と意見交換、授業担当者への確認 ○各種指標（GPA）の推移の確認	19人
量子放射線工学分野FD会議（月一回）	専攻提供の講義の実施内容の検討と計画、及び学生の研究状況取り組み状況の報告などFDに関する議論	13人

4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組（但し、成績GP分布関連は次項に）

（工学全体）

・2022年度に入学した学部生および大学院生を対象に入学時アンケートを実施し、本学で身につけたい能力や将来取得したい学位など幅広い項目で調査を行なった。結果は工学部内で共有した。

（航空宇宙工学科，航空宇宙海洋系専攻航空宇宙工学分野）

- ・新入生オリエンテーション，学年ガイダンス
- ・授業評価アンケートの実施と授業改善の検討
- ・卒論発表優秀賞，および修論発表優秀賞，修論アイデア賞の選出

（海洋システム工学科，航空宇宙海洋系専攻海洋システム工学分野）

- ・内部質保証のために，カリキュラム達成目標（DP）に対する学生の達成状況を明確化するポートフォリオを作成した。
- ・7月にJABEEの継続審査を受審した。その結果全項目S（満足）の評価をいただき，継続が認められた。
- ・卒業研究ルーブリックの確認・見直しを行った。一定の基準下で評価することにより，複数教員による採点のばらつきを少なくすることができる。
- ・2024年度以降の総合型選抜の見直し案を検討した。2024年度入試の内容変更は見送ったが，入

学者の動向の調査を継続し、長期的な視野で内容を検討していく。

- ・例年通り、年1回の教育プログラムに対する外部評価委員会を3月に開催した。外部評価委員より、新大学の学生動向の調査と旧大学との比較分析、卒業生による教育プログラムの評価、入試制度の精査などが課題との指摘を受けた。

(建築学科, 都市系専攻建築学分野)

- ・月1回程度開催される学科会議において、学生の就学状況に関する情報を共有し、必要な場合には対策について協議・検討を行った。

- ・外部講師を招いた講評会において卒業設計最優秀賞を授与した。

- ・学科での卒業証書授与式において、建築学科賞(論文)および建築学科賞(設計)をそれぞれ授与した。

- ・学科OB・OGによる職業ガイダンスを実施した。

(都市学科, 都市系専攻都市学分野)

- ・月1回程度学科会議を開催し、各学年の学生の履修状況を随時確認した(学生アドバイザーによる)。その結果、学科1回生に対してTAによる「数学補講」を実施した。

- ・学科の新大学カリキュラム、将来構想に関する改善の方向性について議論した。

(電子物理工学科, 電子物理系専攻)

○共通

- ・カリキュラムオリエンテーションを利用して、新入生が大学生活を滞りなくスタートできるように、新入生向けの導入研修を実施した(4月2日実施)。

- ・学部生、院生(M,D)向けのオリエンテーションを実施し、大学生活および単位修得に関する注意喚起を行った(4月2, 4, 14日実施)

- ・教室会議において、入学試験及び入学時アンケートの情報を共有した。

- ・特に「電子物理工学概論1,2」の成績を基にして成績不振者の動向に関する情報を共有した。特に「電子物理工学概論2」では1年生の意識調査に関するアンケートを実施し、学科内で共有した。アンケート結果を基にして、次年度はより充実した講義にするための意見交換を行った。

- ・工学FDセミナー等の学内FDセミナーに参加した(詳細は7.で説明)。

○電子物性コース(中百舌鳥キャンパス)

- ・講担会議・教室会議を定期的実施し、教育の質の改善・向上に関する取り組みを実施している。

- ・前期・後期に実施する授業評価アンケートの分析結果の情報を共有した。

- ・卒業・修了時アンケートの情報を共有した。

- ・特にM2怠惰学生に対する指導ルールの厳密に設定した。

- ・教育PDCAサイクルを実践すると同時に課題点を洗い出し、講担会議・教室会議(各11回)を通して、解決に向けた検討を行った。これまで不十分であったチェック体制を見直し、次年度以降、学外チェック委員を置くこととし、依頼・快諾いただいた。

- ・大学コンソーシアム大阪主催「高大接続フォーラム」に参加した(1名2回)。

- ・電子物理工学実験I,IIについて、出席・レポート提出状況を担当教員以外にも参照できるようにすることで、主任や学年アドバイザーの教員等が適宜サポートできる体制を整えた。

- ・大学院講義において海外からの特別履修生対象に、講義内容の理解を助けるための英文の補足資料を作成して提供した。最終レポートの記述内容より講義理解に有効であったことが確認できた。

- ・学生が就職した後でも修士課程での研究成果を論文投稿できるように執筆指導を体系化した。その

成果があり、昨年卒業した修士学生2名が卒業から半年以上たった後で論文投稿して、1名は掲載、1名は査読中である。

・アセスメントシートに基づく点検について講評会議および教室会議で情報共有・意見交換を行い、点検内容に問題がないことおよび実効性が伴っていることを確認した。

○電子材料コース（杉本キャンパス）

・教室会議を定期的実施し、教育の質の改善・向上に関する取り組みを実施している。

・前期・後期実施する授業評価アンケートの分析結果の情報を共有した。

・卒業・修了時アンケートの情報を共有した（予定）。

・旧市大生向け電子・物理工学実験Ⅱの成績講評を実験科目担当教員全員で行い、情報を共有した。かつ実験テキストの作成スケジュールを議論し確認した（2/15付）。

・電子・物理工学実験Ⅰで開講するテーマ「研究開発実務研修」での工場見学先を実験科目担当教員全員で協議し、電子物理工学にかかわりの深い電力および次世代先端的エネルギー産業をになう関西電力堺港発電所と hidrologia 株式会社を訪問先として決定した。

・電子・物理工学実験で必要な物品を実験科目担当教員全員で協議し、ノートパソコン、オシロスコープ、ポスター発表のための用紙やインクなどの物品購入を行い、実験を滞りなく遂行できるようにした。

・電子・物理工学実験ⅠとⅡにおいて、実験科目担当教員全員で新型コロナ感染・濃厚接触者疑い状態での欠席時の対応について協議し決定をした。

・電子・物理工学実験Ⅰの成績講評を実験科目担当教員全員で行い、情報を共有した。

・教育内容（講義ノート）の情報を共有した。

1) 計算物理学演習, 2) 統計力学Ⅰ

(情報工学科)

・FD 会議において、授業の内容や学生の履修状況に関する情報交換を行い、改善点について検討した。

・特に成績が不振な学生については個別に対応を行った。

・Microsoft Azure Dev Tools for Teaching を情報工学科で契約し、所属学生が授業の自習・研究に利用可能なプログラミング開発環境を提供した。

・半期ごとに、各学年の学生の履修状況を随時確認した。

(電気電子システム工学科, 電気電子系専攻)

・大学の実施する学生アンケートを学科独自で集計を行い、教員間で共有した。

(府大電気電子システム工学課程)

・新大学での読替え科目のない必修科目の単位未習得者の単位習得を進めるため、分野全教員間で情報を共有を行なった。

・3年生後期の実験科目のまとめとして成果発表会を実施した。実験担当以外の教員も参加し、実験担当者以外の視点からのコメントを行った。コメントは学生がレポート内にまとめることで実験担当者が共有した。

・3回生の研究室配属先選択の一助とするため 12/5~9 に分野全研究室の研究室見学会(オープンラボ)を開催、また、M1科目のポスター発表会を実験科目の中に組み込んだ。

(市大電気情報工学科)

・3年生の研究室先行配属のために、10/26 に市大・電気情報工学科教員全員での会議を開催し、成

績確認・配属方法・配属候補学生の検討を行った。

(応用化学科，物質化学生命系専攻化学分野)

- ・実験科目については，実験内容によって指導方法を異なるため各教員で様々な取り組みを行っている。教員の指導方法を改善・向上させるため基礎化学実験（1年次配当科目），応用化学実験（2・3年次配当科目）についてピア授業参観を実施した（延べ73回参観（教員一人当たり2.4回参観））。
- ・2019年度から実験科目について個別実験にする授業改善を進めてきた。次の課題として演習科目に関する見直しを開始し，関連講義科目との関係性を再確認した。また，3クラス編成で開講しているためクラス分けの方法（習熟度別など）など検討を行った。

(化学工学科，物質化学生命系専攻化学工学分野)

○学部・課程

- ・化学工学科（1年生）および化学工学課程（2-4年生）では，4月および必要な時期に，学年ごとにとりまとめたガイダンス資料に基づいたカリキュラムオリエンテーションを開き，学生の履修相談等に積極的に助言を与える。
- ・授業の履修や学生生活における相談窓口として，学生アドバイザーに加え，いつでも教員と相談できるコンタクト教員制度を導入し，修学・進路・家庭・課外活動・その他学生生活全般についての相談に応じるとともに，指導または助言を与える。
- ・毎月授業の履修・出席状況を確認し，教室会議終了後の職員会議で報告し，学生アドバイザーやコンタクト教員による対応など，問題解決のための協議をする。
- ・独自のマークシート式の授業アンケート，職員会議，カリキュラム委員会などで挙げた意見や問題を話し合い，教育の質の改善・向上に生かす取り組みを続ける。
- ・教育の内部質保証を目指して，2021年度から，化学工学に関する外部試験の受験を奨励しており，学卒の程度の化学工学に関連した専門的应用能力を持っている「技術者」「研究者」を対象にした，「化学工学技士（基礎）」の受験を今年度も学域卒業予定者推奨し，その合格率や平均点などを今後の教育に反映する。

○大学院

- ・博士前期課程および博士後期課程のすべての学年に対して，ガイダンス資料に基づいたカリキュラムオリエンテーションを開き，学生の履修相談，研究の進捗などに積極的に助言を与える。また，大学院博士後期課程進学における経済的なサポート状況などの大学や工学研究科の制度などを詳しく説明する説明会を開催する。
- ・就職など分野独自の説明会を開き，修学・進路についての相談を受け付ける。
- ・指導教員のみならず分野長，副分野長，教務委員などが，家庭・課外活動・その他学生生活全般についての相談に応じるとともに，指導または助言を与える。
- ・毎月授業の履修・出席，研究室での研究の進捗状況を確認し，教室会議終了後の職員会議で報告し，研究指導教員による対応など，問題解決のための協議をする。
- ・大学院の博士後期課程学生の博士研究の進捗状況を分野全教員で共有する。
- ・独自のマークシート式の授業アンケート，職員会議，カリキュラム委員会などで挙げた意見や問題を話し合い，教育の質の改善・向上に生かす取り組みを続ける。

(マテリアル工学科，物質化学生命系専攻マテリアル工学分野)

- ・2022年度に入学した学部生および大学院生を対象に入学時アンケートを実施し，本学で身につけたい能力や将来取得したい学位など幅広い項目で調査を行なった。結果は工学部内で共有した。

(マテリアル工学科, 物質化学生命系専攻マテリアル工学分野)

- ・毎月開催される教室会議と合わせて、学科FD 会議を実施する。成績不振者への対応、授業アンケート集計結果の共有など、FD 全般について議論する。
- ・学校推薦型選抜合格者に対して、入学前学習指導を行い、学力向上を図る。
- ・副指導教員制度を見直す。学生本人の希望に基づき副指導教員を決定し、定期的な面談を行うことで、精神的なケアを含む研究指導のサポートを行う。
- ・ピア授業参観を促進し、年1 回以上の参加を強く推奨する。
- ・卒業研究終了時に、学部4 年間の学習に関する総合的なアンケートを実施し、次年度以降のFD 活動へ反映させる。
- ・定年退職等に伴う教員人員構成の変化に対応し、授業担当者の見直しを行う。
- ・外部研究者を招いたコロキウムを開催し、最先端の研究内容について学ぶ機会を設ける。

(化学バイオ工学科, 物質化学生命系化学バイオ工学分野)

- ・1-3 回生全員に対し、学生自身による単位取得状況振り返りの機会を設けるとともに、教員との個人面談を行い履修計画に対するアドバイス等を行った。4 回生および大学院生に対しては、所属研究室での対応を行った。
- ・月1回開催の学科・分野会議において、注意が必要な学生の動向に関する情報を共有し、適宜対応を協議した。

(量子放射線系専攻)

- ・学内外で開催されている放射線教育関連の催し等の機会を通じて中学・高校教員等の意見交換し、その中で得られた情報を上記 FD 会議で共有し、その成果を分野の教育活動に役立てた。

5. 成績 GP 分布, GPC データの分析に関連する事柄 (必ずご記入ください)

提供を受けた専門科目の GPC を、2022 年度前期・後期ごとに公大科目, 市大科目, 府大科目に分類し、各学科・分野・専攻ごとに GPC の平均と標準偏差を算出した。集計結果を公大工学教務委員会で説明した。さらに各学科・専攻で共有することで、各授業担当者の採点時の参考にしていただいた。

6. 年に 1 回以上, FD 活動に参加した専任教員の人数 [実数] (必ずご記入ください)

- ・年に 1 回以上, FD 活動に参加した専任教員の人数 (263) 人
- ・所属内の専任教員の人数 (263) 人

7. その他, 追記事項

(航空宇宙工学科, 航空宇宙海洋系専攻航空宇宙工学分野)

- ・航空宇宙工学科では、編入学試験問題作成委員会を組織し、各年度の試験問題について検討している。航空宇宙工学分野では、大学院入試委員会(専門基礎/専門科目作成委員会)を組織し、各年度の大学院入試問題および入試全般に関して検討している。

(電子物理工学科, 電子物理系専攻)

○電子物性コース(中百舌鳥キャンパス)

- ・講担会議・教室会議を定期的実施し、教育の質の改善・向上に関する取り組みを実施している。
- ・学生の成績(GP)を基にして成績不振者の動向に関する情報を共有した。

○電子材料コース(杉本キャンパス)

- ・教室会議を定期的実施し、教育の質の改善・向上に関する取り組みを実施している。
- ・学生の成績（GP）を基にして成績不振者の動向に関する情報を共有した。
- ・旧市大生向け電子・物理工学実験Ⅱの成績講評を実験科目担当教員全員で行い、情報を共有した。

○セミナー等の参加状況

2022.05.28 令和4年度入研協大会（第17回）主催：大学入試センター 参加1名

2022.07.08 全学FDセミナー「feedback studioとwebクリッカー 教育をよりインタラクティブにする2つのツールの活用法」 参加10名

2022.10.12 第1回教育改革フォーラム「あらためて Faculty Development について考える」 参加2名

2022.10.13 2022年度第1回高大連携フォーラム「高大接続らからみた探究活動」（主催：大学コンソーシアム大阪）参加，大学コンソーシアム大阪・高大連携推進委員会・委員長として企画から従事1名

2022.11.04 第1回FD研究会「大阪公立大学におけるFDのあり方について考える（1）」 参加3名

2022.11.05 大学入試センター・シンポジウム2022 主催大学入試センター 参加1名

2023.02.16 FD研修会「理論物理と数学」 参加1名

オンデマンド アクセシビリティセンター研修 参加9名

（電気電子システム工学科，電気電子系専攻）

・学生に大学院後期課程進学後のキャリア例を示すため企業出身の先生および後期課程から企業に就職したOBを招き，電シスの主催でキャリアセミナーを開催した。

・月例の分野教育改革会議でPlan, Actを回すことにより，課題が生じた際に迅速な対応ができるようにしている。

（化学工学科，物質化学生命系専攻化学工学分野）

・学部や課程のGPAの値と1-2回生担当の数学や物理学，化学の単位取得状況と成績との相関や微積分学や線形代数学，常微分方程式のCまたはD判定学生の2年次以降の専門科目成績との相関関係などを分野内委員会の内部質保障委員会でメール審議し，専門科目である移動速度論や数学演習を担当する教員と共有し，授業の理解不足や成績不振者の指導に活かす取り組みをしている。

2022 年度 部局 FD 活動報告

農学部・研究科

<p>1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科・専攻の会議にて、研究科教育運営委員が主体となって FD 活動を実施した。 学部・研究科の教員および学生を対象としたセミナーは農学セミナーとし、周知した。 学外および学内を対象としたオンラインセミナー農学部リボーンを開催した。 		
<p>2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催</p>		
開催日	内容（タイトル）	参加者数(教員)
4月26日(火)	農学セミナー1（植物色素の生合成に関する研究/佐々木伸大・公立大）	48(24)
4月26日(火)	農学セミナー2（野外トランスクリプトームデータを利用したコムギ黒さび病の診断と発生調査/津島綾子・公立大）	50(25)
5月20日(金)	農学部リボーン1（植物ウイルスを利用したワクチン生産/望月知史・公立大、宇宙農業に求められる微生物機能/遠藤良輔・公立大、食品加工残渣(廃棄物)は有用物質の宝庫/阪本龍司・公立大）	90(20)
6月17日(金)	農学部リボーン2（生活習慣病を予防する機能性食品因子/原田直樹・公立大、都市にある緑地は人を健康にするのか/大塚芳嵩・公立大、細胞内の温度を測る/稲田のりこ・公立大）	84(20)
7月22日(金)	農学部リボーン3（都市近郊の里山の保全と活用/上田 萌子・公立大、都市でのスマート農業への挑戦/横井修司・公立大、微生物の力で絶滅に瀕したサンゴを守る/三浦夏子・公立大）	70(10)
8月9日(火)	農学セミナー3(植物の陸上化と免疫システムの進化/中神弘史・マックスプランク研究所)	22(10)
10月11日(火)	農学セミナー4（ストリゴラクトン生合成酵素に関する研究/若林孝俊・公立大特任研究員）	25(10)
11月22日(火)	農学セミナー5（Coordinated Na ⁺ extrusion and long-distance transport in plant/ Dae-Jin Yun・建国大学）	40(15)
<p>3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催</p>		
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第1回（*月*日）～について」 「第2回…」と記載）	委員の人数

応用生物科学科/専攻 会議	7月29日 博士学位審査基準についての検討 9月30日 大学院科目の成績評価基準についての検討 10月28日 大学院科目の開講期についての検討 2月14日 大学院の副指導教員制度についての検討	23
応用生物科学科 2 年 前期学生実験担当者 会議	第1回2月17日 実験内容の見直しと講義科目との連携 方法の検討	7
生命機能化学科/専攻 教授会	第1回6月8日 新入生に関する教育についての検討 第2回6月13日 専攻学生教育に関する検討 第3回9月15日 専攻学生教育に関する情報交換 第4回10月3日 効率的な教員配置に関する検討 第5回11月24日 効率的な教員配置に関する情報共有 第6回1月4日 効率的な教員配置に関する検討 第7回3月1日 専攻学生教育に関する検討	9
生命機能化学科/専攻 学生実験担当者会議	第1回8月18日 TAの有効な配置に関する検討 第2回2月20日 TAの有効な配置に関する検討	11
緑地環境科学類実習 演習検討WG	4月1～5日 新規実習科目（緑地環境科学実習演習入門 A）の実習書の作成 4月1～11日 新規実習科目（緑地環境科学実習演習入門 A）の実施方針の精査 5月9～16日 宿泊を伴う実習（緑地環境科学実習演習 IIA）の実施方針の検討 6月1日 実習演習WG（対面実施）の開催（実習科目の評 価基準の検討と意思統一、旧カリキュラムと新カリキュラム との連携・接続に関する検討） 6月3～20日 実習内容の高度化と効率化を図るための機器 整備計画の立案 6月29日～7月2日 実習科目における受益者負担の検討 7月14～29日 生物学実験（新カリ）実施における課題の 検討 8月5～31日 2023年度TA配置計画の検討 8月8日～9月26日 新規実習科目（緑地環境科学実習演習 入門B）の実習書の作成 8月19日～9月1日 シラバスチェック結果への対応検討 （および新カリキュラムに伴う新規実習科目の実施状況の精 査） 9月16～30日 実習内容の高度化と効率化を図るための機 器整備計画の検討（2023年度新規・重点予算要求） 11月4日～12月26日 実習科目の代表教員および担 当教員の配置検討	各回10

農学部教務委員会	第1回（6月3日）成績評価ガイドライン等の策定について 第2回（6月27日）追試験対応について、他 第3回（10月12日）2023年度時間割の検討について、他 第4回（1月10日）2023年度農学部要覧（案）について、他	8
農学研究科教務委員会	第1回（6月3日）成績評価ガイドライン等の策定について 第2回（6月28日）追試験対応について、他 第3回（10月12日）2023年度時間割の検討について、他 第4回（1月10日）2023年度農学研究科要覧（案）について、他	8

4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）

- ・応用生物科学科では以下の授業アンケートを独自に実施した：植物病理学（受講者 66 名、ほぼ毎回実施、回答数 733/858 回収率 85%）
- ・生命機能化学科では、複数の講義で独自に授業内容に関する学生へのアンケート調査を実施した。
- ・緑地環境科学類では以下の授業アンケートを独自に実施した：植物形態分類学（回答数 55/63、回収率 87%）、緑地環境科学実習演習（回答数 51/54 件、回収率 94%）、水理学（受講者 52 名、授業毎に実施したアンケートの平均回答率 94%、講義全体に対するアンケートの回答率 69%）、水環境管理学（受講者 21 名、授業毎に実施、平均回答率 94%）、緑地環境科学実習演習入門 B（受講者 53 名、一部の授業で実施、平均回答率 92%）、生態環境計測学（回答数 42/42 名、回答率 100%）

5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）

- ・応用生物科学科/専攻: 2023 年 1 月 27 日に開催した学科/専攻会議において、前期開講科目の成績 GP 分布および GPC データを分析し、問題点を共有した。一部の科目で、AA 比率が高い科目が見受けられたことから、今後の成績評価をより厳密に行うことを申し合わせた。授業振り返りも合わせて活用すること、授業外学習時間を増加させる努力を行うことも申し合わせた。
- ・生命機能化学科/専攻: 2023 年 2 月 1 日開催の学科/専攻会議において、前期開講科目の成績 GP 分布および GPC データを分析し、問題点を共有した。一部の科目で、AA 比率が高い科目が見受けられたことから、今後の成績評価をより厳密に行うことを申し合わせた。
- ・緑地環境科学科/専攻: 2023 年 1 月 27 日に開催した学科/専攻会議で GPC の集計結果について報告があり、偏りが大きい科目について検討した。授業外学習時間が短い一方で GPC が高い場合は改善が必要との指摘があり、学科内で情報共有と意見交換を行った。

6. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 [実数]（必ずご記入ください）

- ・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 （ 68 ）人
- ・所属内の専任教員の人数 （ 68 ）人

7. その他、追記事項

- ・高等教育研究開発センター会議への出席（平井規央教授・月1回）
- ・「大学教育だより」のVoice企画、「商学部と農学部の学生交流と座談会」（9/21）の運営に参加（平井規央教授）
- ・アクセシビリティ支援委員会会議への出席（稲田のりこ教授・2022年中9回）

<p>1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業振り返り（授業アンケート）」への教員コメントの入力を推進した。 学部（学類）生（1～4 回生）の単位修得状況を保証人へ連絡するとともに、成績を把握することで学生に対する個別指導に役立てた。 複数の講義で独自に授業内容に関する学生へのアンケート調査を実施した。 卒業研究の実施内容等の改善のため、教員会議および委員会で議論を行い、その情報を全教員で共有した。 2022 年度の GPC 成績一覧表を教員会議内で開示し、最適化に向けて情報共有を行った。 著名な研究者を招聘し、獣医学専攻教員・学生の知識向上のための集談会を実施した。 獣医臨床センターの教員ならびにスタッフの飼い主様への対応を向上させるための研修を実施した。 獣医臨床センターの教員ならびにスタッフの臨床技術を向上させるために OPUVMC セミナーを実施した。 獣医臨床センターの教員ならびにスタッフに対して生命倫理と安全管理に関する研修を実施した。 		
2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
6 月 24 日	獣医学研究科新任教員研究発表会 ・肝転移における肝類洞内皮細胞の役割：細胞間相互作用機構の解明（松原 三佐子 准教授）	30 名
6 月 30 日	医療面接スーパーバイザー研修（医療面接実習を行う際のスーパーバイザーに関する研修）	40 名
7 月 15 日	サイエンスカフェ at りんくう（大阪湾と実験室をむすぶー動物の昔と今を照らす DNA 情報研究）（国立遺伝学研究所 工樂 樹洋 教授）	26 名 （オンライン参加者数不明）
11 月 26 日	医療面接スーパーバイザー研修（医療面接実習を行う際のスーパーバイザーに関する研修）	40 名
12 月 15 日	獣医学研究科集談会（2 本鎖 RNA を感知する自然免疫システムの新たな展開）（大阪大学医学系研究科教授 河原行郎）	40 名 （オンライン参加者数不明）
1 月 6 日	オープンセミナー（持続感染ウイルスの病原性とその治療法の探索）（岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 田知之 教授）	15 名 （オンライン参加者数不明）

1月20日	第2回医学・獣医学連携セミナー ・腸内細菌関連物質の肝移行によるがん微小環境形成（大谷 直子 教授） ・Dysbiosis 関連疾患の治療法の開発（植松 智 教授） ・近未来の直腸癌治療（前田 清 教授）	40名
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)～について」 「第2回…」と記載)	委員の人数
学部・学類教育運営委員会	カリキュラムおよび授業実施方法等に関する検討(第1回(8月17日)、第2回(12月19日))	9名
CBT運営委員会	CBTの実施および運営に関する検討(第1回(12月1日))	7名
図書委員会	コロナ禍での図書館での自習室の管理および運営に関する検討(10月24日)	6名
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組(但し、成績GP分布関連は次項に)		
特になし。		
5. 成績GP分布、GPCデータの分析に関連する事柄(必ずご記入ください)		
2022年度のGPC成績一覧表を教員会議内で開示し、その目的や意義等を再度、説明し、最適化に向けて情報共有を行い、改善について意見交換を行った。		
6. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数[実数](必ずご記入ください)		
・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (46)人		
・所属内の専任教員の人数 (46)人		
7. その他、追記事項		
<p>・卒研検討委員会(委員9名)にて、5月の獣医学演習の実施、そして12月の卒業研究発表会および学生の発表内容等について改善を図るために意見交換と討議を行い、その内容を教員会議で情報共有を行った。(第1回4月11日、第2回4月15日、第3回4月21日、第4回5月6日、第5回5月14日、第6回5月18日、第7回5月21日、第8回6月5日、第9回8月18日、第10回9月30日、第11回11月5日、第12回12月2日、第13回12月17日、第14回1月17日)</p> <p>・OSCE委員会(委員16名)では、2022年度のOSCE本試験の実施およびこれに向けた実習の改善と審査を担当する教員の訓練の実施等について、検討を行った。具体的には、コロナ禍のために対面での会議はせず、メールや電話連絡による打合せと情報共有等を頻繁に行った(2月の本試験の前、11月～2月に40回以上の打ち合わせを実施)。また、これ以外にも、各試験分野の実施内容について</p>		

分野責任者が全大学の責任者と直接やり取りし、委員会で情報共有を行った。

1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。(必ずご記入ください) 教育活動等について講演する FD 講演会を年 4 回実施している。 ワークショップ形式により医学教育について涵養する FD-WS を年 2 回実施している。		
2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容 (タイトル)	参加者数
2022 年 6 月 6 日 (月) 17:30~18:30	2022 年度 第 1 回 教育分野 FD 講演会 ○【シリーズ：Teacher of the Year 2020 受賞講演】 「医化学教室での取り組み」 医化学 及川 大輔 准教授 ○【シリーズ：医学教育実習の新しい形】 「医学生に対するシミュレーション教育の工夫」 SSC 奥 幸子 特任研究員 ○【シリーズ：医学教育実習の新しい形】 「新しい共用試験 OSCE について」 総合医学教育学・IR 室 栩野 吉弘 准教授	215 人
2022 年 6 月 25 日 (土) 13:00~17:00	第 9 回 大阪公立大学医学部 FD-WS 13:00 開会「ワークショップとは？」 おしながき スタッフ紹介 13:10 【W1】 教育：困っていること 13:50 【D1】 全体発表 14:10 【W2】 卒業時目標設定&ロードマップ作製 14:55 【D2】 全体発表 15:20 休憩 15:30 【L】 学生評価と学習の種類 15:50 【W3】 学生評価 16:25 【D3】 全体発表 16:45 【D4】 振り返り 16:50 閉会実績証贈呈、集合写真撮影 【W】：グループワーク 【D】：全体討論 【L】：講義 数字は各セッション	44 人
2022 年 9 月 7 日 (水) 17:30~18:30	2022 年度 第 2 回 教育分野 FD 講演会 ○【シリーズ：Teacher of the Year 2020 受賞講演】 「公衆衛生は、地域社会の取り組みを通じて、すべての人々の健康を増進させる科学・技術です。」 公衆衛生学 加瀬 哲男 講師 ○【シリーズ：講義・実習の新しい形】	222 人

	<p>「患者講義について：コロナ禍での気づき」 肝胆膵病態内科学 榎本 大 病院教授</p> <p>○【シリーズ：医学教育分野別認証評価】 「教育分野別認証評価って？ -2024年2度目の受審に向けて-」 医学科長・教務委員長・総合医学教育学 首藤 太一教授</p>	
<p>2022年12月3日(土) 13:00~17:00</p>	<p>第9回 大阪公立大学医学部 FD-WS 13:00 開会 「ワークショップとは？」 おしながき スタッフ紹介 13:10 【W1】 教育：困っていること 13:50 【D1】 全体発表 14:10 【W2】 卒業時目標設定&ロードマップ作製 14:55 【D2】 全体発表 15:20 休憩 15:30 【L】 学生評価と学習の種類 15:50 【W3】 学生評価 16:25 【D3】 全体発表 16:45 【D4】 振り返り 16:50 閉会 実績証贈呈、集合写真撮影</p> <p>【W】：グループワーク 【D】：全体討論 【L】：講義 数字は各セッション</p>	32人
<p>2022年12月5日(月) 17:30~18:30</p>	<p>2022年度 第3回 教育分野FD講演会</p> <p>○【シリーズ：Teacher of the Year 2021 受賞講演】 「私が統計家になった理由」 医療統計学 吉田 寿子 准教授</p> <p>○【シリーズ：講義・実習の新しい形】 「簡単！垂直統合型講義の作り方」 整形外科学 橋本 祐介 講師</p> <p>○【シリーズ：医学教育実習の新しい形】 「臨床スターター実習 ～現状と今後の課題～」 総合医学教育学 鎌田 紀子 講師</p>	216人
<p>2023年3月7日(火) 17:30~18:30</p>	<p>2022年度 第4回 教育分野FD講演会</p> <p>○【シリーズ：Teacher of the Year 2021 受賞講演】 「ゆとり第一世代の私が大事にしてきたこと “Be Ambitious and Be Active”」 医化学 清水 康平 助教</p> <p>○【シリーズ：講義・実習の新しい形】 「医学英語論文の読み方の指導あれこれ：M2~M4での取り組み」 産業医学 林 朝茂 教授</p> <p>○「医学教育モデルコアカリキュラム 改定版の要諦」</p>	229人

	総合医学教育学 豊田 宏光 准教授	
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)～について」 「第2回…」と記載)	委員の人数
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組(但し、成績 GP 分布関連は次項に)		
特になし。		
5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄(必ずご記入ください)		
GPC データをカリキュラム評価委員会で開示し、その目的や意義等を説明し、最適化に向けて情報共有を行い、改善について意見交換を行う予定である。		
6. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数[実数](必ずご記入ください)		
<ul style="list-style-type: none"> ・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (236)人 ・所属内の専任教員の人数 (254)人 		
7. その他、追記事項		
特になし。		

2022 年度 部局 FD 活動報告

リハビリテーション学科・リハビリテーション学研究科

<p>1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）</p> <p>部局 FD の検討：リハビリテーション学研究科教務委員会</p> <p>部局 FD の実施体制：月に 1 回の頻度で、上記教務委員会にて、理学療法学専攻 2 名（淵岡・杉山），作業療法学専攻 3 名（横井・田中・上田），教務担当事務 4 名（小木曾・鈴木・井口・辻本）で実施している。さらに、教務委員会に出席した委員は、各専攻会議にて報告・検討している。</p>																							
<p>2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>内容（タイトル）</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2022 年 5 月 21 日</td> <td>第 1 回臨床実習指導者会議</td> <td>12 名</td> </tr> <tr> <td>2022 年 6 月 25 日,26 日</td> <td>臨床実習指導者講習会</td> <td>7 名</td> </tr> <tr> <td>2022 年 7 月 11 日</td> <td>第 2 回臨床実習指導者会議</td> <td>12 名</td> </tr> <tr> <td>2022 年 10 月 29 日,30 日</td> <td>臨床実習指導者講習会</td> <td>7 名</td> </tr> <tr> <td>2023 年 2 月 18 日,19 日</td> <td>臨床実習指導者講習会</td> <td>6 名</td> </tr> <tr> <td>2023 年 3 月 13 日</td> <td>第 3 回臨床実習指導者会議</td> <td>12 名</td> </tr> </tbody> </table>			開催日	内容（タイトル）	参加者数	2022 年 5 月 21 日	第 1 回臨床実習指導者会議	12 名	2022 年 6 月 25 日,26 日	臨床実習指導者講習会	7 名	2022 年 7 月 11 日	第 2 回臨床実習指導者会議	12 名	2022 年 10 月 29 日,30 日	臨床実習指導者講習会	7 名	2023 年 2 月 18 日,19 日	臨床実習指導者講習会	6 名	2023 年 3 月 13 日	第 3 回臨床実習指導者会議	12 名
開催日	内容（タイトル）	参加者数																					
2022 年 5 月 21 日	第 1 回臨床実習指導者会議	12 名																					
2022 年 6 月 25 日,26 日	臨床実習指導者講習会	7 名																					
2022 年 7 月 11 日	第 2 回臨床実習指導者会議	12 名																					
2022 年 10 月 29 日,30 日	臨床実習指導者講習会	7 名																					
2023 年 2 月 18 日,19 日	臨床実習指導者講習会	6 名																					
2023 年 3 月 13 日	第 3 回臨床実習指導者会議	12 名																					
<p>3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>会議・委員会名</th> <th>内容・開催日 （複数回の場合は「第 1 回（*月*日）～について」 「第 2 回…」と記載）</th> <th>委員の人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教務員会に併設</td> <td>月 1 回水曜日</td> <td>5 名</td> </tr> <tr> <td>理学療法学専攻専攻会議</td> <td>毎週月曜日</td> <td>12 名</td> </tr> <tr> <td>作業療法学専攻専攻会議</td> <td>毎週月曜日</td> <td>12 名</td> </tr> </tbody> </table>			会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第 1 回（*月*日）～について」 「第 2 回…」と記載）	委員の人数	教務員会に併設	月 1 回水曜日	5 名	理学療法学専攻専攻会議	毎週月曜日	12 名	作業療法学専攻専攻会議	毎週月曜日	12 名									
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第 1 回（*月*日）～について」 「第 2 回…」と記載）	委員の人数																					
教務員会に併設	月 1 回水曜日	5 名																					
理学療法学専攻専攻会議	毎週月曜日	12 名																					
作業療法学専攻専攻会議	毎週月曜日	12 名																					
<p>4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）</p> <p>1. 2022 年度日本理学療法士教員協議会（2 月）：テーマ「大学改革と理学療法学教育」に 1 名参加。</p> <p>2. 全国リハ学校協会 2022 年度教員研修会（2 月）：テーマ「合理的配慮が必要な学生への支援」に 6 名参加。</p>																							
<p>5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）</p> <p>成績 GP 分布の分析：リハビリテーション学研究科教務員会で検討した後、理学療法学専攻と作業療法学専攻の専攻会議にて報告。分布に偏りがある場合の検討を周知した。</p> <p>GPC データの分析：年度最終のリハビリテーション学研究科教務委員会にて検討した後、理学療法学専攻と作業療法学専攻の専攻会議にて報告。（2023 年 3 月 8 日(水)予定）</p>																							
<p>6. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 [実数]（必ずご記入ください）</p> <p>・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 （ 24 ）人</p> <p>・所属内の専任教員の人数 （ 24 ）人</p>																							
<p>7. その他、追記事項 なし</p>																							

2022 年度 部局 FD 活動報告

看護学部・研究科

1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください） 実施体制：看護学部 FD 委員会（4 名，河野あゆみ委員長，長田暁子副委員長，伊藤良子，細名水生）		
2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
7 月 6 日	第 1 回ジャーナル・カフェ テーマ「英論文抄読の意義と進め方」 話題提供者：河野あゆみ教授（地域包括ケア科学）	38 名
8 月 3 日	第 2 回ジャーナル・カフェ テーマ「アクションリサーチのすすめ方について」 話題提供者：長田暁子准教授（家族支援看護科学・小児看護学）	39 名
9 月 7 日	第 3 回ジャーナル・カフェ テーマ「代替補完療法の介入研究のあり方」 話題提供者：細名水生准教授（ヒューマンケア科学）	41 名
10 月 5 日	第 4 回ジャーナル・カフェ テーマ「観察研究におけるデータ収集」 話題提供者：深山香織講師（生活支援看護科学・在宅看護学）	23 名
11 月 2 日	第 5 回ジャーナル・カフェ テーマ「シングルケース実験デザインによる介入効果の評価について」 話題提供者：白井みどり教授（高齢者生活行動ケア科学）	27 名
12 月 7 日	第 6 回ジャーナル・カフェ テーマ「マイナーなテーマ・研究方法を用いた研究の論文アクセプトについて」 話題提供者：中山祐一講師（家族支援看護科学・小児看護学）	28 名
12 月 21 日	看護学部 FD 研修会 テーマ「看護実践力と自律的学習能力を伸ばす看護基礎教育」 1. 基調講演「アクティブラーニングを進める教育設計」 中井俊樹教授（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室） 2. シンポジウム話題提供者 ①「自律的学習能力を伸ばすポートフォリオの活用」 星野聡孝教授（国際機関教育機構） ②「シミュレーション医療教育について」 首藤太一教授（医学部総合医学教育学） ③「看護実践力を伸ばすアクティブラーニング」 杉本吉恵教授（看護学部・看護技術学分野）	75 名
2 月 1 日	第 7 回ジャーナル・カフェ	30 名

	テーマ「〈性暴力被害者にあうこと〉をめぐる「他者」を媒介とした語りの分析」 話題提供者：伊藤良子講師（基礎看護科学・看護技術学）	
3月1日	第8回ジャーナル・カフェ テーマ「〈あなたはお酒に強い？それとも弱い？〉と新型コロナウイルス mRNA ワクチンに対する反応性のお話」 話題提供者：藤田寿一准教授（健康支援基礎科学）	37名
1. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第1回（*月*日）～について」「第2回…」と記載）	委員の人数
FD委員会	第1回(5月2日)FD活動の検討について	4名
FD委員会	第2回(6月9日)FD研修とジャーナル・カフェについて	4名
FD委員会	第3回(7月5日)FD研修とジャーナル・カフェの検討	4名
FD委員会	第4回(1月25日)FD研修のまとめ、活動報告について	3名
2. 上記以外の教育改善・FDに関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）		
3. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）		
看護学部 FD 委員会では、GPC データについて看護師国家試験結果との関連の分析と対策、入試方法に基づく分析による入試改革への活用、新カリキュラムの評価に用いていく方向性を検討した。		
4. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 [実数]（必ずご記入ください）		
・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 （ 67 ）人 ・所属内の専任教員の人数 （ 70 ）人		
5. その他、追記事項		

2022 年度 部局 FD 活動報告

生活科学部・研究科

<p>1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科及び学部それぞれの教務委員会において FD の議題を設け、情報共有を行うとともに、学部及び研究科の FD 活動を推進している。 ・学部の各学科の学科会議において FD の議題を設け、FD 事項をすべての教員にフィードバックしている。 		
<p>2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催</p>		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
2023 年 3 月 8 日	生活科学研究科 FD 研修会（研究科教授会内で開催）	55 人
<p>3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催</p>		
会議・委員会名	内容・開催日 （複数回の場合は「第 1 回（*月*日）～について」 「第 2 回…」と記載）	委員の人数
生活科学研究科 大学院教務・入試委員会	研究科の FD 活動に関して、課題・情報の共有を行った。毎月第 2 水曜日に開催。	11 人
生活科学部 学部教務委員会	学部の FD 活動に関して、課題・情報の共有を行った。毎月第 2 水曜日に開催。	11 人
各学科 月例 FD 会議	各学科の FD 活動に関して、課題・情報の共有を行った。毎月第 4 水曜日に開催。	58 人
<p>4. 上記以外の教育改善・FD に関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科の初年次教育（1 年次前期）について、全 4 コースを横断した必修科目「生活科学論ゼミナール」を 2018 年度に導入し、継続的に実施している。 ・学部の初年次教育（1 年次前期）を 2018 年度に導入し、継続的に実施している（2022 年度科目名：食栄養学科「食栄養学概論」、居住環境学科「居住環境学概論」、人間福祉学科「人間福祉学概論」）。 ・研究科の修士論文について、主査及び副査による複数指導体制のもとで指導を行うとともに、中間報告会及び最終報告会を実施している。 ・学部の卒業論文または卒業設計について、主査及び副査による複数指導体制のもとで指導を行うとともに、報告会を実施している。 ・成績優秀な学生の表彰を行っている。そのうち、研究科の修了生及び学部の卒業生については、3 月の学位記授与式で行っている。 		

5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）
<ul style="list-style-type: none">・研究科及び学部それぞれの教務委員会において FD の議題を設け、GPC データを共有し、研究科の各コース及び学部の各学科において成績分布の点検・分析を行うこととし、必要に応じて成績評価の課題等の検討を行うこととした。・研究科教授会内で生活科学研究科 FD 研修会を開催し、全教員に対して、GPC データを用いた成績分布の点検・分析や課題検討を促した。
6. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 [実数]（必ずご記入ください）
<ul style="list-style-type: none">・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 （ 58）人 ※休職中 1 人・所属内の専任教員の人数 （ 59）人
7. その他、追記事項
特になし。